

『佐世保バーガーズ』

中野・佐世保バーガーの一階フロア。
上手から、キッチン、カウンター、客席フロアと、下手へ広がる。
手前、やや上手寄りに外への出入り口がある。
中央奥には、二階へ上がる階段がある。
時刻は午後十一時過ぎ、閉店の時間は過ぎている。

店内一階に客はおらず、三人のスタッフは清掃をしている。
店長・タメヨシは、フロア清掃及びテーブル拭き。
店員・ナツはカウンター内で清掃及び在庫整理中。
店員・慎之介はフロアで清掃をしているように見えるが、
新聞を畳み直したり、雑誌を並び替えたり、物の位置を微調整したり、と
全く役に立っていない。むしろ店長のジャマになっている。

店長 あ、トマトさ、あといくつ残ってる？

ナツ トマトは……と、あと、……六個ですね

店長 了解、発注しとくわ

店長、店内を見渡し、時間を確かめる。

店長 じゃあ、そろそろ二人ともあがっちゃっていいよ
ナツ はい。そんじゃこ終えたら帰りまーす

慎之介、テーブルに逆さまに乗っているイスを、やたら微調整。
見る角度を変えて、微調整。気に食わず、直す。それもしつくり来ず、直す。
それを見ている店長。

店長 ……おい、慎之介

慎之介 店長、どうですかね、このバランス？

店長 どうでもいい、帰れ

慎之介 店長、僕は大丈夫です。大丈夫なんで。ははははは

慎之介、いろんなところを拭き始める。意味のないところも拭く。
店長、あきれて自分の作業に戻る。
ナツ、カウンター内の作業を終える。

ナツ　タメさん、じゃ、お先です
店長　おう、お疲れ

ナツ、エプロンを外しながら階段を上り始める。

店長　あ、ナツちゃんごめん

ナツ　はい？

店長　あの、二階の例の……

ナツ　あ、……はい

店長　上行ったらさ、もう一回声かけてもらっていいかな？

ナツ　（時間を確かめ）今日はまたしぶといですね

店長　な。じゃ悪いけど、よろしく

ナツ　りょーかいです

ナツ、二階へ上がって行く。

慎之介、無意味な拭き掃除を続けている。

中央奥の壁のレンガをなんか拭き続けている。

それを見ている店長。

店長　あの、慎之介……

慎之介　え、あはは、大丈夫ですよ、店長。あとは俺やるときますんで、先に上がって下さい

店長　うん、気持ちはありがたいんだけど、お前さつきから

浮浪者　（遮って）いらっしやいませ

上手から現れた浮浪者が、出入り口の外に立っている。
ひと目見てそれと分かる、ボロボロの身なり。

店長 　　また……

浮浪者 　「また」とはどういうことかね。ここにこうして来ている事実を鑑

みれば、僕は客かもしれないじゃないか

店長 　　客は店先で「いらっしやいませ」とは言わないよ

浮浪者 　ああ、それに自ら「客かもしれない」と言っている時点で、客ではないな

間

浮浪者 　……めんどくさ。そう思ったね？

店長 　　い、いや

浮浪者 　そう、めんどくさいんだ。人と人が分かり合うということとは、とかくめんどくさい。さらには、分かり合えたと思っても、実のところそのつもりになっているに過ぎないんだ。分かり合えたという錯覚、そこに溺れるのが人間なのかもしれない

店長 　　あの、帰って下さい

浮浪者 　（気にしない）時に店主、そなたはなぜ僕が「いらっしやいませ」と言っただかわかるか？

店長 　　わかりませんよ

浮浪者 　あきらめるなっ！

店長 　　あきらめるほどの情熱がねえよ

浮浪者 　さあ、もう一度、ゆっくり、少しずつ、できることから

店長 　　いや、あの

浮浪者 　さあ、なぜ「いらっしやいませ」だ？

店長 　　……じゃ、言いたかったからじゃないですか？

浮浪者 　……そ、その通り。正解だ！君はすごい！

店長 　　あ、全然嬉しくない

浮浪者 　僕には、家がない。店なんでもつてのほかだ。そんな僕が「いらっしやいませ」なんて言う機会があると思うかい？ いいや、思わない。だから、本来僕が言うのはおかしいのはわかっているが、店舗の入り口というシチュエーションに甘えて、敢えて言わせてもらったんだ、「いらっしやいませ」と。ありがとう

店長 帰れ

浮浪者 それは、またおかしなことを言う、僕はそなたの店舗には一歩たりとも足を踏み入れていない。ならば、ここは天下の公道。国の物であり、国民の物だ。誰にも文句は言わせない

店長 ああ、そうですかっ

浮浪者 いや、待てよ。僕は果たして国民か。税金も払っていないし、戸籍だって確か……

店長 あの、もう閉店するんです。ご用件は？

浮浪者 閉店、ああ知っているよ。ただ閉店して問題があるのは、僕が客だった場合だ。僕は客じゃない。そもそもこんな格好で入店するほど、

僕だって非常識ではないんだ。公共の施設に足を踏み入れる場合は、それなりの格好に着替えるのがマナーだと僕は思っているよ

店長 ご用件……

浮浪者 あ、でもテイクアウトならOKか（テイクアウト、発音よく）

店長 ご用件！

浮浪者 残り物をください！

店長 ないっ

浮浪者 ありがとうございます！

店長 聞け、人の話を！

浮浪者 いいじゃないか！ どうせ捨てるんだろ！（大きく通る声で）

店長 正義っぽく言うなっ

浮浪者 考えてみてもくれまいか。今はどこもチェーン店ばかり、実際チェーン店しか生き残れない時代だ。チェーン店には残り物の廃棄に厳重なルールがある。ゴミ箱に鍵を閉める所もある。それならば、僕らの生命線は個人経営の残り物しかないではないか

店長 あのね、前もそうやって理路整然と暴論ふるってうるさいから、残り物あげたでしょ。で、その結果どうなったか、覚えてるでしょうがうん、夜になるとここにホームレスの行列ができるようになった
困るんだよ

浮浪者 ああ、一気に倍率が上がってしまった

店長 そこじゃないっ。あの時、「一度だけ」「あなただけ」って確認したでしょ。なんで広めちゃうの

浮浪者 店主、そなたも飲食店を経営する身なら覚えておかねばならない。

人間、食べる前と後では、考えが変わる

店長 話にならない。お前はいつまで磨いてるんだ！（慎之介に）

浮浪者 どれ、今一度在庫を確認してみようではないか（入ろうとする）

店長 ふざけんな、帰れ（止めて、外に突き出す）

浮浪者 ……。…どれ、今一度在庫を確認して（入ろうとする）

店長 コラコラコラ（止めて、突き出す） 学習能力ゼロかつ

浮浪者 ダメ、なのか

店長 お引き取りを

浮浪者 もしや僕の根性を試しているのでは……？

店長 ちがう。帰れ

浮浪者 ……そっか。（彼方を見やり、カツコよく） ……またな

浮浪者、上手へ去って行く

店長 もう来るな

浮浪者（声のみ） はっはっはっは……

脱力した店長に、磨いたレンガをアピールする慎之介

店長 ……お前はアレだな、一番掃除しなくていい所を掃除したな

慎之介 店長、『三匹の子豚』ってあるじゃないですかあ

店長 ないっ、帰れ

慎之介 ちよつ、俺に当たらないでくださいよ。…アイツ、また来ますね

店長 多分な。少なくとも今夜はもう相手にしたくない。さっさと電気落として帰るぞ

二階からナツが降りて来る。制服から私服に着替えている。

ナツ タメさん、ダメです。例のお客さん、帰ってくださいません

店長 え、帰ってくれないって……

ナツ なんか「もうちよつと、もうちよつと」って

店長 いや、それは困るよ
慎之介 そうだ、困るよ
ナツ お客さん、今日は目がガラガラしてて、説得するにもどうも怖くて
店長 そっか、わかった。じゃあ、俺が
慎之介 (遮って) シャーねーな！ よし、俺がバシッと行ってやりますよ。
任しといて下さいよ(二階へ上がって行く)
店長 いや、慎之介、ちよつと、おい

慎之介、二階へ完全に去る

店長 ……ナツちゃん
ナツ はい？
店長 慎之介のヤツ、なんかおかしくないか？
ナツ そうですか？
店長 さつきからアイツ、ムダ働きしかしてないんだけど
ナツ ムダ働き……
店長 ここ、アイツが一心不乱に磨いたレンガ
ナツ うわあ、ムダあ
店長 何か帰りたくない事情でもあるのかねえ？
ナツ さあ、心当たりないですねえ
店長 アパート追い出されたワケでもあるまいに
ナツ ゴキブリでも出ましたかね？
店長 出たところで帰るでしょうよ
ナツ でも北海道出身の人は、ゴキブリ見たことないから異常に怖がるつ
て言いますよ
店長 アイツ、栃木だよ
ナツ 関係ないですねえ、栃木ですもんねえ
店長 栃木なんて山しかないんだから、虫全般友だちだろうに
ナツ ですよねえ、友だちですよねえ。……あ、今日何曜日ですか？
店長 え、今日は、水曜
ナツ ああ、確か、先週も水曜、慎ちゃん、最後までお店に残ってた気が
します

店長 　ん、そうだったっけか？

ナツ 　いや、タメさんは早番でした。私と慎ちゃん二人だったんですけど、「閉店処理しとくので、お先に上がって下さい」って、上がらせてくれたんですよ。それで……

店長 　え、何？

ナツ 　ん、これ言ってもいいのかなあ

店長 　え、言いなよ

ナツ 　疑惑ですよ、あくまで疑惑ですからね

店長 　言いたいでしょ、言いたくなってるでしょ

ナツ 　あたしが言ったって、言わないで下さいね

店長 　こういう時の女の子って、目がキラっキラしてるよね

ナツ 　翌日の開店前に、在庫確認したら、佐世保バーガーきっかりひとつ分の材料が、減ってたんですよ

店長 　ええ、そりゃ……つまり

ナツ 　きつと、練習って名目で作って食べたと思うんですけどね

店長 　練習って、アイツもう五年のベテランじゃなか

ナツ 　なんでしようね、儉約でもしてるんですかね

店長 　儉約って、まかないは出してるしさあ

ナツ 　一食、多いですよ

店長 　いや、あ、うん……。こういうこと、これまで頻繁にあったの？

ナツ 　いや、こないだが初めてだと思います。これは、ホントに初めてかあ……

店長 　だから黙つところかなあ、と思っただけですけど

店長 　でも、今週も居残ろうとしているところを見ると……

ナツ 　……ですかね？

店長 　困ったなあ。ウチにあるものは、商品の材料だからね

ナツ 　はい

店長 　その材料を加工して、商品に仕上げて、お客さんに提供するのが我々の仕事でしょ？

ナツ 　はい

店長 　そうやって、お客さんのニーズに伝えて、お金を支払って頂くのが客商売なんじゃないの？

ナツ はい、……アレ、説教？

店長 それを自分の食欲を満たすためだけに使うっていうのは、客商売の根本から関わってくる問題だよ

浮浪者 そつ、だから手を出すなら残り物にしとけてことだよ（いつの間にか店先にいる）

店長 そうだよ（ナツに）、違うよつ（浮浪者に）

浮浪者 違うってよつ（ナツに）

店長 あんた、いつからそこに？

浮浪者 いつから？ 僕はいつだってそなたの、ここ（胸）におるよ

店長 いねえよ

浮浪者 いや、いる

店長 いないって

浮浪者 胸ポッケの中を見てごらん

店長 ん？

店長、胸ポケットから折り畳まれた紙を取り出し、広げる。

浮浪者 僕の似顔絵だ

店長 なっ！ あれ？

浮浪者 前職がマジシャンだった浮浪者もいるってことさ

店長 ああ？

浮浪者 ちよいと応用すれば……

浮浪者、胸ポケットから輪切りにされたトマトを取り出す。

浮浪者 スリに万引き、なんでもござれだ

店長 あ、それウチの！ いつの間！

浮浪者 はっはっは、アディオース！（去り際に）……ああ、ポッケがビシヨビシヨだ（上手に去る）

店長 ……何しに来たんだ、アイツは

ナツ 自慢ですかね？

店長 子供か

二階から慎之介が降りて来る。

慎之介 店長、ダメです。帰ってくれません。なんか軽く逆ギレ気味です

店長 あ、そう。そいつあ、まいったなあ（慎之介に冷たく）

慎之介 はい……、あれ、その似顔絵、さっきのアイツ。どうしたんですか、それ？

店長、不機嫌そうに慎之介を見ながら、似顔絵をクシャクシャにして捨てる。

慎之介 ……（ナツに）ちょっと、ナツさん、ちょっと（とナツを隅に連れて行く）

ナツ ん、何なに？

慎之介 店長、なんか怒ってませんか？

ナツ うん、そうだね

慎之介 あれ、俺に怒ってますよね？

ナツ ああ、そうみたいだね

慎之介 俺なんか怒らせること言ったかなあ

ナツ いや、多分言っていないと思う

慎之介 ですよ

ナツ あたしは言っただけ

慎之介 ふ〜ん……ん、え、今なんて？

ナツ ん？

慎之介 え、え、ナツさん、何？何しゃべったんですか？

ナツ ん〜、これ言ってもいいのかな

慎之介 頼みますよ

ナツ これ、あたしが言っただけで言わないでね

慎之介 ああ、目がキラッキラしてる

作家（声） 店長殿、店長殿お〜

店長 え、え？

二階から、ヨレヨレながらも勢いよく、作家が降りて来る。

24時間テレビの黄色いTシャツを着ている。メガネ。

作家 いつも……いつも……、いつもお世話になっております（土下座）

店長 ちよ、ちよ、重い重い、挨拶が重い

作家 いやいやいや……（頭上げない）

店長 いえ、こちらこそ、いつもご利用いただきありがとうございます
作家 とんでもないです……（頭を上げて）店長殿、このようにお話をさせて頂くのは初めてかと存じますが、折り入ってお話が、折り入ってお話があります！

ナツ （小声で慎之介に）二回言った、二回

慎之介 （小声で）ええ、二回

作家 私を、ここに置いてやってください！

店長 ええっ？

作家 どうか私を、ここに置いてやってくださいっ！（頭を再び下げる）

ナツ・慎之介 （ジェスチャーで「また二回言った」と確認し合う）

店長 いや、ちよつとあの……、まず頭を上げて下さい

作家 はいっ！（勢い良く頭を上げる）

店長 えっとですね、まず、ウチは今、求人していないんですけど……

作家 え？

店長 なので、こちらで雇うようなことは……

作家 いやいやいやいや、違います！ そうではなくて、今晚、ここにいさせて下さい！と、そういう意味です

店長 あ、そういうこと……いや、でも、もう閉店しますので……

作家 明日が本番なんです！

間

作家 では（二階へ行くようにする）

店長 ちよちよちよ、待って下さいよ

作家 フッフ「今求人してないんですけど」

店長 思い出し笑いやめろ。……あのですね、何を仰ってるのか全然わからないんですが、……その、「本番」というのは？

作家 ああ、これは失礼しました。明日が初日なんです

店長 初日……、初日って

作家 公演の初日なんです

店長 えっと、公演というのは、演劇とかそういう……？

作家 はい。あ、それを言ってますんでした。明日から、中野ウエストエンドスタジオで私の劇団の公演が始まるのですが、その台本がまだできてないんです

他一同 ええっ

慎之介 それ、マズくないですか？

作家 (食い気味に) マズイです

店長 よく存じ上げないんですが、お芝居というのは台本がなくてもできるとは？

作家 (食い気味に) できないモンです

店長 台本がないんじゃないや、準備できないじゃないですか

作家 あ、いや、いやいや……Oh, mistake…

ナツ ムカつく……

作家 まるつきりできてないワケじゃないんです。ラスト、ラストだけまだ書けてないんです

店長 ああ、なるほど。でも、マズイですよ

作家 (食い気味に) マズイです

店長 それをいま書いているというワケですか？

作家 はい。いや、何も思い浮かばず、書けてないんですけど

ナツ ウチ帰れよ

店長 ナツちゃんっ。言い方、言い方があるでしょ

ナツ だって

店長 ……あの、お客様。事情は何となくわかりました。ですが、その、申し上げにくいのですが、他に二十四時間営業のお店がこの辺にもいくつかありますので、そちらに移って頂いた方がよろしいかと思いましたが……あ、この坂を下って右に曲がりますとマクドナルドがあり……

作家 (遮って) 御店長殿！

店長 は、はい

作家 「あ、この人、いつもウチを利用してんじゃない？」、とお思いになったことはございませんか？

店長 そりや、まあ……あ、でも、その御礼に今晚お店を使わせるというワケには

作家 いやいや、そういうことではなくてですね、私、もうここじやなきやダメなんです！

店長 え、な、何を……

作家 このお店じやなきや書けないんです！

店長 え、ええっ

作家 このお店の二階じやないと台本が一行も書くことができないんです！（店長にすがりつく）

そこに、上手よりカンタが出入り口までやってくる。

カンタ ターメちゃん、早く飲み行こ

作家 そういう身体になってしまったんです！ どうしてくれるんですか？

間

カンタ ……出直すわ（上手へ去る）

店長 あ、カンタ、違う。カンター！

ナツ カンタさん、何を勘違いしたんだろう

慎之介 まあまあ、そこは掘らずに……

作家 受け入れてくれるということですねっ

店長 何も言っていないっ

作家 すいません。空気を読み違えました

慎之介 すぐえ感性

店長 あの、その「ここじやないと書けない」というのは、ただの思い込みなんじゃ？

作家 そんなことはありません。私だって、私だって、他の場所で書けた方が都合がいいのは当たり前。何度も試みて参りました。ですが、…書けない。全く台本が進まない。いくら時間をかけても時間帯を変えても、ノートに書かれるのはドラえもとコロ助ばかり

店長 それはまた極端な

作家 店長殿は本番直前の私に、ひたすらドラえもとコロ助を書かせるおつもりですか？

店長 いや、そういうワケじゃ……

ナツ 作家さん、そのドラえもとコロ助の配分は？

作家 3対2です

店長 ん、それ聞いてどうすんの？

ナツ ふゝむ、ドラ3コロ2か……

作家 いえ、コロ3ドラ2です

店長 どっちでもいいよっ

ナツ 私もそう思います

慎之介 あの、店長、事情は事情ですけど、やっぱり閉店時間だしお帰り頂
くしかないんじゃないですか

店長、作家を見やる。

作家、懸命に再び深く頭を下げる。

店長 どれくらいですか？

作家 えっ？

店長 そのラストを書き上げるのに、どれくらいかかるんですか？

慎之介 店長っ

作家 え、あつ、すぐです！ 思いつけばすぐ！ ものの十五分ほどで書き
上げられます！

店長 わかりました。じゃあ書き上げたらすぐ帰って下さいよ

作家 ありがとうございます！ じゃあ、すぐ取り掛かりますんで（二階に
行こうとする）

店長 あ、一時間。一時間以内ですからね。終電とかありますんで

作家 ……大丈夫です。……家、近いんで（二階へ去る）

店長 いや、あなたじゃなくて、ああ……（作家、完全に去る）

慎之介 ちよつと店長、なんで許しちゃうんですかあ

店長 だってさあ

ナツ 断ったら何しかすかわからなそうですよ

店長 うん。というより、店閉めたとしても、不法侵入されそうな気がして……

慎之介 しません、てゝ

店長 いいよ、俺が残るから。それより何だ？ 早く店を閉めなきゃいけない理由でもあんのか？

慎之介 え……いや、そんなことは特になんですけど……

上手より、カンタが入り口のところまでやって来る。

カンタ (のぞきつつ) まだお取り込み中？

店長 あ、カンタ。よかった、中入ってくれ

カンタ 俺、おジャマじゃない？

店長 大丈夫、カンタ、勘違いしてる

カンタ うん(店の中に入る)……別れ話？

店長 だからっ

ナツ さっきのお客さん、ここの二階でしか演劇の台本が書けないんだって

慎之介 そういう身体になってしまったそうです

店長 で、どうしてくれるんですかって、まだ二階で書いてる

カンタ ああ、そういうことかあ。うん、安心できる異常な情報をありがとう

店長 明日が締め切りなんだと

カンタ うん、どうでもいいや。あ、じゃあタメちゃん？

店長 そ、まだ飲みに行けませうん。ちよつとビールでも飲んで待っててくれ(ビールを取りに、カウンターへ)

カンタ おごり？

店長 そりやもちろん

ナツ じゃ、タメさん。あたし帰ります

店長 うい、お疲れさん

カンタ ええ、ナツちゃん帰っちゃうの？ 一緒に飲もうよお

ナツ ごめんなさい。帰って、BSで闘牛見ないといけないんで。じゃ

ナツ、下手へ去って行く。

カンタ ……闘牛って、BSでやってるの？

慎之介 さあ……。でもチャンネル増えましたからね

カンタ そっかあ。すげえなあ、BS。……闘牛かあ。ナツちゃん、どんな気持ちでハンバーガー売ってるんだろう

店長 はい、お待たせ（ビールを渡す）

カンタ あいつ、ありがとう。じゃ、お言葉に甘えて。慎ちゃんも飲んだら？

自腹で（笑）

慎之介 あゝ、あの店長、よかつたらもうお二人で飲みに行っていていいですよ。

あと、俺やつとくんで

カンタ おつ、タメちゃん、じゃあここはお言葉に甘えて……

店長 いや、結構

カンタ え、なんで？

店長 最近、在庫の数が合わなくてさあ、いい機会だからあとでちよつと

調べておくわ。食べ盛りのネズミでもいるのかねえ

ふりん（ビールを飲み始める）

（縮こまる）

店長 （レジ内の金銭の計算を始める）

カンタ （ビールをひと口飲み終えて）かぁー！△■☆※○■いゝ。△■

☆？※▼○■う（意味不明な音をテンションだけで、なんか言う）

店長 はいはい、わかんないわかんない

へへへ、今日さあ、まいっちまったよお

店長 なに、また大将機嫌悪かった？

カンタ それは大丈夫。巨人連勝してるから

店長 そりや何より

カンタ いまどき巨人が勝った負けたで、機嫌が変わる寿司屋ってどうよ、

慎ちゃん？

慎之介 いや、どうなんスカねえ

カンタ 機嫌だけじゃないんだから。負けが決まった瞬間に、仕事がまあ雑

になる雑になる。こないだなんか、ボケーつとにぎって、トロ二枚重

ねで出してたからね

慎之介 え、二枚重ね？

カンタ そうよ。隣でにぎってる俺もさ、大将に合わせなきゃって、そっからネタ全部二枚重ね。もうにぎればにぎるほど、損

慎之介 マジすか（笑）

カンタ ううん、後半ウソ。大将が一回だけそう握っちゃったって話
ええ……？

カンタ 酒飲んでんだもん。ウソぐらいつかせてよお（笑） あ、で、まいた話

店長 本当の？

カンタ これは本当。さっきまたウチに、あの浮浪者がやってきてさ

店長 あ、カンタのところに？

カンタ アイツ言ってたよ、「あそこのハンバーガー屋はパンに付いたゴマすらくれない」って

店長 なんだそりゃ

カンタ 「あんな薄情なヤツだと思わなかった」って

店長 失望されるほどつき合いねえよ

カンタ 「そもそも動物性タンパク質を炭水化物で挟む根性が気に食わない」
根性って何だ

店長 「その点、あなた方は動物性タンパク質がむき出しだ。実に清々しい、残り物をください」

店長 バカじゃねえの

カンタ なあ。さすがにそんな手には引っ掛からなかったんだけどさ

店長 けどさ、って。あげちゃったの？

カンタ いやね、アイツ「世界がもし一〇〇人の村だったら」って話始めてさ、

店長 ん？ うん

カンタ （少し感極まる）アイツ、涙浮かべながら「世界がもし一〇〇人の村だったら、五〇人は栄養失調に苦しみ、お寿司を食べられるのはたった一人だけなのです」って

店長 ……うん

カンタ なんか俺、心打たれてよお（感極まる）。九十九人、かわいそう……

店長 あの、それは食糧事情というより、寿司の文化の問題じゃないかと、

カンタ (聞いてない) 気づいたら、残りモノ全部あげちまってたよ
店長 ああ

カンタ あとで大将に大目玉。いやあ、まいったまいった
店長 そりやそうだ

カンタ しかしアイツも大したもんでよ、傷んで捨てるしかないヤツまで持
つてったよ

店長 大丈夫か、それ

カンタ いや、俺も「これはヤバイ」って言ったんだけどさ、アイツ「ヒョ
ツコな現代人には腐ってるものでも、縄文人には新鮮だ」って

店長 アイツは縄文人のつもりなのか……

カンタ いやあ、人間の可能性は無限だねえ

店長 あゝあ、あとがコワイぞ。アイツは……

と、言いながら、店長、二階へ上がって行く

カンタ で、ネズミさんは、いつまで縮こまってんだい？

慎之介 え？

カンタ 何、店のモノに手え付けちゃったの？

慎之介 え、あれ？ なんで？

カンタ バレバレだよ、バレバレ

慎之介 いや、その、何ていうか……

カンタ (ビール飲み干す) あ、もう終わっちゃまった。なあ、ネズミ。汚れ
ついでにもう一本かっぱらって来いよ

慎之介 ちよっと、カンタさん

カンタ ジョークジョーク、お寿司屋さんジョーク (笑)

店長、二階から下りて来る。手にはゴミ袋

店長 二階の作家さん、全然書けないらしく、ちよんまげ付いたドラえも
ん描いてたから叱っついた

カンタ あれ、マンガ家さんだっけ？

店長 演劇の人。ありや、ちよっと時間かかりそうだわあ (外にゴミ出し

（行くこうとする）

カント ……と、いうことは？（ビール瓶、空のアップール）

店長 （外へ行きながら）慎、二本目出してやれ、（上手へ去る）

カント そういうこった、慎ちゃん

慎之介 はいはい、ただいま

慎之介、カウンターへ行き、ビールを持って帰って来る。

慎之介 はい、どうぞ

カント おい、青年。そこに座りなさい

慎之介 え

カント いいから、座んなよ

慎之介 （カントの向かいに座る）

カント （慎之介の顔をじっと見ながら）……女がらみか？

慎之介 え、な、何がですか？

カント だから、店のモノに手え出しちゃった理由よ

慎之介 あれ、俺、何か言いましたっけ？

カント 凶星だろお

慎之介 え、あ……はい、なんで

カント 見てりやあわかるよお。こちとら毎日魚の顔色うかがってんだから、人間なんてバレバレよお。……ダメだよ、慎ちゃん。己の欲望のままに、売り物に手え出しちゃあ

慎之介 ですよ

カント ぼっちゃり系かあ

慎之介 え？

カント ぼっちゃり系が好みと言われたんだな？

慎之介 はい？

カント 慎ちゃん、ぼっちゃり系好みの女の子のために、夜な夜なハンバー

ガー食ってたんだろ？

慎之介 いえ

カント え、違うの？

慎之介 あの、食べるのは僕じゃなくてですね……

カント 俺？

慎之介 いや、カントさんでもなくて、その、女の子の方、なんですよ

カント あ、そういう話か

慎之介 ええ

カント 慎ちゃんがぼっちゃり系好きか

慎之介 違いますよっ。片思いしてる相手にハンバーガー振る舞って気を惹

こうしてるだけです！

カント ……正直いゝ

慎之介 あ、いやその、……はい

カント で、それがタメちゃんにバレちゃったんだ

慎之介 いや、店長も俺が食べたと思ってるみたいですけど、……マズイン

ですよ

カント 何が？

慎之介 今晚、その娘がここに来るんです

カント え！ ちよっと、おい！ そりゃマズイなっ！

慎之介 嬉しそうですねっ

カント 何なに？ 持つてくんじゃないの？ ここに来ちゃうの？

慎之介 いや、だって、この近くにいる人だし、その、ハンバーガーつくつ

てる姿を見せるのって、ちよっとポイント高いかなあって……

カント わかる。その気持ち、お寿司屋さんよくわかる

慎之介 どうしましょう、この状況？

カント 正直に謝るしかないね

慎之介 店長に？

カント うん、タメちゃんとその女の子に。だって、今晚は無理なんじゃない

い、これ？

慎之介 ですよね……

カント 営業時間内に普通に来てもらえばいいじゃん

慎之介 それは……「夜中にこっそり二人つきり」ってのが、いいじゃない

ですか！

カント いいね！ ヒミツの共有！ 盛り上がるねっ

慎之介 ……その分、バレたらリスクデカいですけど

カント うーん、うまいことできてんなあ。ああ、他人事でよかったあ

慎之介　ちよつと、カンタさあ〜ん
カンタ　謝れ謝れ。かのジョージ・ワシントンだって、桜の木を折ったから、
大統領になれたんだぞ
慎之介　話、端折り過ぎでしょ

急に上手側奥が騒がしくなる。
どうやら、店長と浮浪者がつかみ合ってるようだ。

店長（声）　もう、勘弁して下さいよ

浮浪者（声）　いや、辛抱ならぬっ

店長（声）　困りますって

浮浪者（声）　こっちだって、困る

店長（声）　トイレなんて、どこでもあるでしょっ

浮浪者（声）　急を要するんだよ

店長（声）　店には入らないというマナーはどうしたんだっ

浮浪者（声）　だから正装に着替えて来たじゃないか

店長（声）　そのどこが正装だっ

つかみ合いながら、店長と浮浪者出て来る。
そして一度、離れて、

浮浪者　どう見たって正装だろ

浮浪者、ナ●シカのコスプレ、完璧。

店長　いろいろ正しくないんだよっ

ナ●シカ　これが僕の一番清潔な服なんだ

店長　認めない。いろいろ認めない。どこで手に入れた、そんな服

ナ●シカ　まんだらけの裏に捨ててあった

店長　ないっ。そんな話、ありそでないっ

ナ●シカ　あったのっ（再び、つかみ合い）

店長　あ、駅。トイレなら駅の使わせてもらえばいいだろ

ナ●シカ 駅はなんか混雑していて入れないんだ

店長 なんだそりゃ

カンタ なあなあ、慎ちゃん。あの人？（小指を立てる）

慎之介 違いますよっ

ナ●シカ あ、寿司屋！ 貴様！

カンタ わ、こわっ

ナ●シカ 貴様からもらったサバか、このトマト。どちらかに当たったんだ。
責任を取ってもらおう。だからトイレを貸せ

店長 どう考えてもサバだろ！ 寿司屋行け、寿司屋に！

ナ●シカ・カンタ （同時に）寿司屋はもう閉まってるっ

店長 カンタ、てめえ！

ナ●シカ、もがくのをやめて、止まる。

店長、急に止まったのに驚く。

店長 え？

ナ●シカ （そんな店長の手をゆっくりほどきながら）…………こわくない

店長 ……………

ナ●シカ、その隙をついて二階へダッシュして去る。

店長 あ、ちよつと！ ちよ、…………ああ

カンタ 縄文人もサバには勝てなかったかあ

店長 もおろ、カンタあゝ

カンタ 俺悪くないでしょ

店長 わかってるよ、八つ当たりだよっ

カンタ （慎之介に小声で）アレだね、今は謝らない方がいいね

慎之介 同感です

下手より、ナツが帰って来て、店内へ。

カンタ あら、あらあら。どしたの、ナツちゃん？

ナツ いつものですよ
カクタ え、まさか……

ナツ 中央線止まってます
他一同 出たあゝ

ナツ しばらく動かないみたいですよ。もう駅の中ごった返しでメチャク
チャです。(座る) ちよつとここで待たせてもらっていいですか？

店長 ああ、全然構わないよ。俺はどっちにしろ帰れないし

ナツ あ、やっぱまだ、いますか(二階指差し)

店長 うん、というか、増えてる

ナツ ん、増えてる？

店長 いや、何でもない(と、キッチンの中へ)

慎之介 ちよつとナツさん。店長に先週のこと言ったでしょ

ナツ 先週？

慎之介 水曜の夜のこと

ナツ ああ、慎ちゃんが残った日のこと？

慎之介 それです

ナツ うん、あたしが言ったって言わないでね

慎之介 そりやまあ……、ん、あれ、えと？(混乱)

二階から、作家がヨレヨレと降りて来る。

店長 あ、書けましたか？

作家 全然。もお全然書けません。何も浮かびません

店長 そうですか……

作家 というか、とうとう頭がおかしくなったみたいで……

店長 え？

作家 幻覚が見え始めました

店長 幻覚？

作家 目の前をナ●シカが通り過ぎたんです

ナツ それは重傷ね……

店長 いや……いるんだ

ナツ え？

店長 ナ●シカ、今うちのトイレにいる
ナツ ナ●シカが……、トイレに？……リアリテイー
店長 なぜ今トイレにナ●シカがいるのかは、うまく説明できません。けど、大丈夫です。幻覚ではないので、ご安心を
作家 よかったあゝ
カンタ でも台本は書いてねえんだろ？
作家 よくなかったあゝ。どうしましょう？
店長 いや、私に言われても
カンタ よし、じゃあ俺が代わりに書いてやるよ
作家 ホントですかっ、初めましてっ
店長 おい、カンタ
カンタ いいじゃんか
店長 よくないよ
カンタ だってよ、このまま飲みに行けない、中央線止まって帰れないってんなら、せめて有意義に時間を使いたいじゃないの
店長 第一、お前台本なんて書けないだろ？
カンタ ああ、書いたことないよ。でも、『男はつらいよ』は四十八作、全て観てるっ
店長 ………。だから、なんだ？
作家 頼もしい
他一同 え？
カンタ そして、基本的に『男はつらいよ』しか観ない
店長 また極端な
作家 男らしい……
カンタ そんな俺なら、文章書けなくても何らかのアドバイスができるっ
慎之介 (ナツに) そうですかね？
ナツ さあ？ねえ、『男はつらいよ』って何？グチ？
カンタ さあ、青年。ひとつ、あらずじ、ってヤツをオイラに語っちゃくれないかい？
作家 ええ、ぜひ！よろしいですか？(店長に)
店長 それで早く書き終えられるのであれば(うながす)
作家 ありがとうございます。では……

……物語の主人公は、児童心理専門の精神科医。彼はある日、複雑な症状を抱えた少年の治療を担当することになる。主人公の懸命なカウンセリングに次第に心を開いて行った少年は、自分が抱える、ある秘密を打ち明ける

カンタ 「そうよ、オイラがお前のおんちゃんよ」

店長 黙って聞け

作家 少年は常人には見えない、「死者が見えてしまう」という「第六感」があり、日々死者の姿に怯えているという。そのために家族や学校でうまくやっていけず、異端児扱いされている

店長 ん？あれ？それって……？

作家 当初は懐疑的だった主人公も、やがて少年と共に死者の声に耳を傾け、彼らの怨念を解消し、成仏させてあげること。こうして、少年が怯えることも減って行き、家庭や学校とも関係が改善して行くのであった。めでたしめでたし

店長 ……えっと、すいません。ちなみにタイトルって決まっています？

作家 『第六感』

店長 ん……

ナツ 「めでたしめでたし」って、ちゃんと終わってるじゃないですか

慎之介 そうですよ、もう書くことないじゃないですか

店長 みんな、そこ？

慎之介 何がですか？

店長 何が、って……。お前、映画とか観ない？

慎之介 ええ、基本観ないです。男子校だったんで

店長 男子校関係ないだろ。ナツちゃんは？

ナツ 映画？アニメとかドキュメントばっかですね

店長 そっかあ……。あれ？俺の勘違いかなあ。おい、カンタ、ちよっと

おかしいよな？

カンタ ああ、納得いかねえ

店長 だよな

カンタ なぜ寅さんはフラれない？

店長 おいっ

カンタ 「精神科医の寅さん」という設定は面白いよ、

店長 いや、

カント でもね、ダメ。ラストが全然ダメ

作家 そ、そう！ まさにそうなんです！ ラストが、なんか、まあるく収まり過ぎて逆に居心地悪いというか、違和感があるというか

店長 それは「オリジナルと違う」という違和感じゃなからうか

慎之介 え、店長、オリジナルって何ですか？

ナツ 何か知ってるんですか？

店長 なぜ、君らは知らないんだ……

作家 やめつけてくださいっ！

店長 え？

作家 私に、店長殿が知っている物語を聞かせないで下さい

間

作家 亡霊モノは昔から作られ続けているジャンルです。どうしても似通

った作品になってしまふんです。でも、だからと言って、どこかの誰かが描いた作品を僕はパクるワケには行かないっ。パクるワケには行かないんだっ！

ナ●シカ（声） よくぞ二回言った！（二階から声がする）

二階から、ナ●シカが階段途中まで降りて来る。

ナ●シカ 青年、話は聞かせてもらったよ

作家 な、ナウシカっ？

ナツ 店長！ 本物、本物ですよ

店長 本当か？ 本当にアレでいいのか？

ナ●シカ そなたの作品を作り上げるプライドに、心を打たれ申した

作家 きよ、恐縮いたします

ナ●シカ 手を貸そう

他一同 え？

ナ●シカ そなたが心から自信を持てるラスト、一緒に作り上げようではないか

カンタ ええ、お前、どう考えても無力だろう

ナ●シカ 黙れ、寿司屋！（美輪さん降臨）

店長 なんか混ざってるよ……

ナ●シカ 僕はその昔、マンガ家を目指していたことがある

慎之介 マジで……？

ナ●シカ こう見えて、ストーリー構成には定評があったものだよ

店長 どこで？

ナ●シカ 同級生の小野寺くんに

カンタ 誰だよ、小野寺くんて

ナ●シカ 黙れ、寿司屋！（明宏さん降臨）

ナツ （慎之介に）ねえ、アレ、ナ●シカじゃなくない？

慎之介 そうですねっ

作家 （ナ●シカに）あの、ぜひお願いします！

店長 ちよっと本気ですか？ あの人、本当は……

作家 （遮って）いいんです！ もはや私の凝り固まった頭だけでは、何が面白いのか全くわからない状態なんです。ぜひとも、客観的に判断できるといいんですけど

店長 ……あの人が一番客観的ではなさそうですが、

ナ●シカ よし、そうと決まれば、エアコンがよく効いた二階へ来い！

作家 はい！（二階へ行こうとする）

ナ●シカ おっと、ところで名前をまだ聞いてなかったな。名は何と言う？

作家 はい、私は、紅……、紅天狗と言います

ナ●シカ 紅……、いい名だ！

ナ●シカ、二階へ去る。紅、続く。

ナ●シカ（声） 本名は？

紅（声） 田所康雄

間

ナツ あ、デジャヴ

店長 え、これ？ この状況？

ナツ はい

店長 どんな記憶入ってるの……

カンタ ま、結果的によかったんじゃないか。終りの目処が立ったって感じがするじゃん

店長 俺は傷口が広がった気がするんだけど

カンタ んなことないって。そうやってネガティブに考えるの、タメちゃんの悪いところだよ

店長 んん

カンタ 飲もう！ 飲んで楽しもう！ てワケで、三本目っ

店長 もうダメ。次から料金発生

カンタ ええ、うそ

店長 それに、俺はまだ仕事があるから

カンタ ないない

店長 あんの。こういう時だからやる、めんどい仕事

店長、二階に伝票整理の書類を取りに行く。

カンタ え、なあ、ナツちゃんも飲もうよお

ナツ あたしもパスです。電車そのうち動き出すし、それまで本でも読めます（中央奥の席に座る）

カンタ ええ、つれないなあ。じゃ、慎ちゃん、付き合っ

慎之介 いや、俺それどころじゃ、

カンタ え、なんで？

慎之介 なんでって、さっき話したでしょっ

カンタ ああ、はいはい。だったら早く詫び入れろ。うひょ（ワクワク）

慎之介 そうなんですけど……（ナツを見る）

カンタ なになに？

慎之介 女性がいると妙に気恥ずかしくもあり……

カンタ だらしのねえ。じゃ、飲もう。飲んで忘れちゃおう

慎之介 いや、そういうワケには……。それに、俺、自転車なんで

カンタ なんだよ。あれ、自転車って飲んじゃいけないんだっけ？

慎之介　ま、一応

カンタ　あつ、あはっ！「自転車って飲んじやいけないだっけ？」ムリムリ、自転車飲めない。デカイデカイ。飲めない飲めない

店長　めんどくせーぞー、酔っぱらいー（二階から降りて来る）

カンタ　だって、誰も飲んでくれないんだものお

店長　あきらめろー（上手寄りの席に座る）

カンタ　ね、タメちゃん。俺さ、ひとりで行っていい？

店長　えっ？

カンタ　いや、だってさ、今日誘ってくれたのはタメちゃんだけど、これはちよつともう無理でしょ。だったら……

店長　（カンタに寄る）カンタ、抜け駆けはナシって、話だろお

カンタ　そうだけどさあ。今日は特例なんじやないかと……、行っていい？

店長　ダメ

カンタ　どうしても？

店長　ダメ

カンタ　じゃあ……（と、ビール瓶をアピール）

店長　（ため息）……しょうがねえなあ（カウンター内へ）

カンタ　やりー、タダ酒ー（カウンターに行く）

店長は、カウンター内からビールをカンタに手渡すと、再び上手寄りの席へ。

カンタは、カウンターに寄り掛かりビールを飲み、外を眺めている。

ナツ、文庫を読んでいる。

慎之介、そろりそろりとナツの席へ近づき、

慎之介　電車、どのくらい動きますかね？

ナツ　さあ……、まあ一時間見とけば、大丈夫なんじやない？

慎之介　一時間かあ

ナツ　慎ちゃん、関係ないでしょ

慎之介　まあ、そうなんですけどね

ナツ、文庫を熟読している。

慎之介 ……何、読んでるんですか？

ナツ 『24』

慎之介 へえ、『24』……。それはどんな話なんですか？

ナツ ん、肉体労働者の話

慎之介 へえ！

ナツ あたし、本読むの遅いから、もう一週間も八時から九時の間なんだ

慎之介 へえ、何言ってるのか、全然わかんない

カンタ あれ？（外を見ながら）

店長 ……どした？

カンタ あの人、ずっとこっち見てるな……

店長 え？あ、カンタがビール飲んでっから、営業してると思われちゃっ

たんじゃないか

カンタ あ、ゴメンゴメン（ビール瓶を隠す）あ、こっち来るね

店長 マジか。もお！

カンタ まあまあ、飲みねえ飲みねえ

店長 いらんいらん

上手より、『白●姫』の悪い妃の姿の女・マヨが、店内に入って来る。

小振りのラジカセを持っている。

店長 あ、すみません。もう閉店してまして……

マヨ ウチの先生、いる？

店長 え……、はい？

マヨ 先生、来てるんでしょ？

店長 先生というのは、……もしかして

マヨ 紅先生、帰って来ないから、きっとここだろうと思って

店長 あ、紅！紅先生、二階にいます

マヨ やっぱり。いつもウチの紅がお世話になってるわね、どうもありが

ツ……………トウー

店長 いえ、そんな

マヨ （なんか唄いながら、階段へ）

店長 や、や、ちよつと、どこへ？

マヨ どこつて、決まってるじゃない（二階を指差す）

店長 あの、閉店したんですけど……

マヨ でも、二階で先生が書いてるんでしょ？

店長 そうなんですけど

マヨ きつと煮詰まってるだろうと思って、音楽の差し入れ

店長 はあ……

マヨ ねえ、マスター？ 世の中にはね、二種類の人間しかいないの。「夢を持って頑張る人」と「それを応援してあげる人」

店長 なるほど……

マヨ 先生が頑張っているなら、応援してあげなきゃ。あなたたちも

店長 それはまあ、その……

マヨ、なんか歌いながら二階へ去る。

慎之介 ……なんか、スゲエの来ちゃいましたね

ナツ タメさん、あの人からリングゴもらっても食べちゃダメですよ

店長 何、その具体的なアドバイス

ナツ あのテの格好した人が、鏡に「世界で一番美しい女」が誰か聞くんですよ

店長 だから何、その具体的な指摘は

カンタ タメちゃん。俺、頑張っても、応援もしてないけど、じゃあ、何？

店長 真に受けてんじゃないよ

カンタ あ、人でなし？（自分を指差し）

店長 うん、それでいい。おとなしく飲んでろ

カンタ おとなしくできるかどうかは、酒に聞け

店長 （無視して、ナツに）ね、今何時？

ナツ えと、あ、十二時回りましたね

店長 そかあゝ

ナツ、再び熟読に戻る。

カンタ タメちゃん、こりゃこの後、飲んで朝までコースだね

店長 いや、帰るよ

カント そんなあ。帰ったって、お互い誰も待ってない寂しい〜部屋しかないじゃんか

店長 それでも帰るの。眠るの。夜通しなんて身体が持ちません
カント 帰れる時間に書き終わればいいけどね。へっへっへ……

ナツ、熟読してると思いきや、ウツラウツラと寝かかっている。

慎之介 ちよつと、ナツさん。寝ちやダメですよ。帰れなくなりますよ

ナツ 寝てない、寝たフリ（目が半分しか開いてない）

慎之介 そう言っついても寝ちやうでしよ

ナツ ん〜、本読んできるとさあ、眠くなるよねぐ〜zzz……

慎之介 ナツさんっ、寝ないで！

ナツ ん（起きる）、寝てないもん

慎之介 勘弁して下さいよ。いい加減自分の居眠りが厄介なこと自覚してください
ださい

ナツ 自覚う？

慎之介 こないだだつて、寝過ぎして甲府まで行っちゃったんでしよ？

ナツ Z z z z ……

慎之介 ナツさん！

ナツ ん、あのね、甲府ね、駅のホームにい、タヌキがいた……zzz

慎之介 ちよつと、ナツさんっ

カント 寝かしといてあげたら？

慎之介 いや、カントさん。ナツさんの居眠りナメてますって

カント うん、だとしてもさあ……（慎之介に耳打ち）寝てる分には、とりあえず問題ないんじゃないの？ いろいろと……

慎之介 え、あ、そっか

カント なあ、いろいろと……さ

慎之介 はい。……うわ、緊張するわ

慎之介、店長が座っているところに近寄る。

慎之介 あの、店長、折り入ってちょっとお話がありま……

BGM「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」スタート
そこに、二階から踊り場にマヨが降りて来る。

マヨ (遮って) 月が煌々と光る夏の夜、彼、あたしを見つめてこう言ったの、……「紅くない天狗は、ただの鼻のデカイ人だ」って

間。

マヨ ここは湖のほとり。あたし、ほのかに明滅して、ゆらゆらと幻想的に舞うホタルを食べながら、こう答えたわ……「愛してる」って。それから始まったの、あたしたち

店長 ……あの、何の話ですか？

マヨ ん、あたしたちのなれそめ

店長 ……なぜ、今？

マヨ もう、みんな、あたしたち二人のウワサで持ち切りじゃないかと思つて

慎之介 スゲエ自意識過剰……

マヨ みんなも人が悪いじゃない。ナ●シカさんが来てるなら、そう言ってくれたらいいのに。もう議論が白熱してロクに自己紹介もしてないんだけど、あの方、どなた？

店長 さあ、何と言つていいか……

マヨ あの眼差し、熱意……同じ匂いを感じるわ

店長 ああ、そうですかあ。ちよつと、私はわかんないです

マヨ そう、残念

マヨ、スタスタ歩いて慎之介の前に。

マヨ うん、君がいい

慎之介 え、な、何がですか？

マヨ (慎之介を引っ張り) さあ、行こう！

慎之介 え、ちよ、ちよつと、何ですか？

マヨ 先生がね、呼んでるの

慎之介 ぼ、僕をですか？

マヨ ええ。というか「視界にまともな格好したヤツがいないと、気が狂いそう」なんて言うの

カンタ あ、その辺の感覚はあるんだ

マヨ んー、衣装で来たのは失敗だったわ

店長 なんて衣装で来ちゃったんですか？

マヨ 明日から本番ですもの。なじませなきゃ

店長 そういふもんなんですか……

マヨ そういふもんなんですかーっ！ さ、行くよっ（慎之介を引きずって行く）

慎之介 ちよ、ちよつと待って下さい（踏ん張るが） うわ、すげえ力！

マヨ 日本の役者は、腰が命！ 下半身の安定感が半端じゃないのよ！

慎之介 （よろめきながら）ちよ、ちよ……あ！ 僕は、「頑張っている人」

なので、応援する方はちよつと……

マヨ ううん、君は、「メガネをしている人」！

慎之介 二種類はあーあーあ……

慎之介、マヨに半ば持ち上げられて二階へ去って行く。

店長 ……俺も慎之介と同じ格好してるんだけどな

カンタ メガネをしてないからだよ

店長 あ、そ

カンタ じゃ、タメちゃんがメガネをしてなかったことに乾杯しようか

店長 飲まないよ。こんな状況で酔うワケにはいかんでしょ

カンタ つれないなあ

店長 なあ、カンタ。俺から誘っておいてホント悪いんだけど、今日はナシにしないか？

カンタ え、ナシって……

店長 あの、当分書き上がらないと思うんだよ。だから、それ飲んだらさ、カンタも帰んなよ

カンタ　むう……無念。じゃ、明日？

店長　明日はちよつと……

カンタ　そつか……。あ、でも電車で動いてないから帰れない

店長　うん、そりゃ、今すぐとは言わないけどさ

カンタ　ねえ、ナツちゃん。今日は人身？ 信号？ 何？

ナツ　……zzz（首を横に傾け眠りこける）

カンタ　寝てるねえ！

店長　これ起こすのも、またひと仕事なんだよなあ

　下手より歩いて来た小池が、入り口に立っている。

小池　あの、こんばんは……

店長　あ、すいません

小池　今日はまだ営業してるんですね

店長　いや、違うんですよ。一応閉店してるんですが……

小池　あ、そうなんですか。あの、今日、加藤さんていらっしやいますか？

カンタ　え、誰、加藤って？

店長　慎之介ですか。ま、いるにはいますけど

カンタ　あ、慎ちゃんか。慎ちゃん、加藤って言うんだ

小池　いるにはいる、というの……？

店長　何と言っているのか……

カンタ　悪い妃にさらわれた

小池　えっ？

店長　カンタっ。いや、物騒なことは何もないんですけど、今二階で、えつと、地域住民の文化活動に協力してまして……（カンタに）合ってるよね？

カンタ　一応ね

小池　そうですか……

店長　あの、慎之介に何か？

小池　いや、今夜バイトの休憩中にウチに来て、って加藤さんが

店長　はあ……

カンタ　えっ！ 慎ちゃんに女の子って、あ！ あんたか！

店長 あ、どっかで見たことあると思ったら、隣の？
小池 はい、ツタヤでバイトしてます、小池と言います
カンタ 「近くにいる」って、近いなあー！
店長 おい、カンタ？
カンタ 5メートルじゃねえか
店長 何言ってるんだ、お前
カンタ え、……いや、別に何でもないけどさ
店長 そうかそうか、ツタヤの店員さんでしたか
小池 いつもご利用ありがとうございます
店長 いえいえ、そんな。……で、慎之介が呼び出した、というのは、二人はその、何ていうか……頑張っているの？
小池 あの、頑張っている、というの？
カンタ 付き合ってるのか、って聞きたいみたいよ。あ、俺この先の寿司屋
ね
小池 あ、あそこの
カンタ おう。で、頑張ってるの？
小池 え、いやいやそんな。タダでハンバーガーご馳走になりに来ただけ
です
店長 なんだ、よかった。夜な夜なここでイチヤイチャしてたらどうしようと思ってる、はっはっは……あ、タダ？
小池 はい、あ、そだ、これはヒミツでした
店長 それは、ええ？ それはどうなんだろう？
小池 すいません、ヒミツで
店長 いやいやいや、ダメダメ
小池 ダメかあ
店長 え、ちよつとどゆこと？
小池 えつとですわ……、こないだ、ツタヤで加藤さんが「自分は修行中の身なんで、よかったら試食してくれませんか」って誘って下さったんです
店長 修行中って、バイトとはいえ、アイツもうキャリア五年のベテランだよ
小池 どうりで！ 先週初めていただいたんですけど、とても美味しかった

です

店長 ああ、ありがとうございます……ん、先週？ 先週って、先週？ 先週水曜？

小池 はい。あ、正確には日付変わったんで、木曜でしたけど
店長 そういうことか……

小池 あの……、なんかすみませんでした

店長 え、いや！ いやいや、あなたは悪くないです。もう全然。ただ、こ
ちの勝手に申し訳ないですけど、今夜はハンバーガーの無料提供は
できないので、食べたきやマック行きなさい、マック

カンタ おいおい、マック推しちゃってるよ。あのハンバーガー屋さん

小池 マックですかあ。うーん、夜中にハンバーガー食べるのもどうかと
思うんですよねえ……

カンタ あれ、この娘、何しに来たんだっけ？

小池 いや、このハンバーガーは別物ですよ。チェーン店のハンバーガ
ーなら夜中に食べるのは気が引けるけど、佐世保バーガーは夜中でも
ガマンできません

店長 小池さんと言ったね、

小池 はい

店長 今のセリフ……、もう一回言っておこうか

小池 はい（今度は客席に向かって）いや、このハンバーガーは別物で
すよ。チェーン店のハンバーガーなら夜中に食べるのは気が引けるけ
ど、佐世保バーガーは夜中でもガマンできません

店長 うん。……小池さん、ハンバーガーはご馳走できないけど、俺、今
夜ツタヤで新作借りちやおうかと思うよ

カンタ 単純だなあ

店長 しかも一週間

小池 はい、七〇〇円になります

店長・カンタ 高え！（客席に向かって）

小池 ま、新作は人気があって回転もするんで、一週間も借りるんじゃね
えぞ、ってことですね

店長 そんな明け透けな……

カンタ ところでツタヤちゃん、こいつはいつもどんなスケベなヤツ借りて

んのよ？

小池 いや、それは守秘義務がありますんで

店長 そんなん借りてないよ

カンタ ま、ま、立ったままもなんだから、座りな座りな

小池 あ、じゃあ、すいません（座る）

カンタ こつそり、こつそり教えて

店長 聞こえてるよ

小池 守秘義務がありますんで

カンタ 今度、中トロ腹いっぱい食わしてあげるから

小池 『スーパーサイズ・ミー』です

店長 うおいつ！ ツタヤ！

小池 あ、いけね

カンタ 『スーパーサイズ・ミー』ってタイトル、卑猥だなあ

店長 だから違うつつうの

小池 でも、なんであのDVDばかり借りるんですか？ って、こんなこと

聞いちやマズイですよね……

店長 いや、まあ、構わないけどさ

小池 何度も繰り返し借りて行かれるから……

店長 あれさ、観たことある？

小池 一応

店長 ハンバーガー食べたくなかったでしょ？

小池 はい……あ、すいません

店長 いやいや、いいの。あの映画はさ、いかにあのチェーン店の料理が

身体に悪いか、っていう映画なんだけど、実際打撃を受けるのはハン

バーガー屋全般だと思っもん

小池 そう、かもしれないですね……

店長 ただでさえ、このダイエット時代で逆風なのにさあ

小池 じゃあ、DVDを繰り返し、借りて行かれるのは……？

店長 一人でも、観る人を減らすため

小池 ……ウチだけでやってる、

店長 ま、気持ちの問題だね

カンタ ねえねえ、ツタヤちゃん、今夜その『スーパーサイズ・ミー』貸し

てもらっていい？

小池 えっと、ウチ一本しか置いてないので、今あったかどうか……、どうでしたっけ？（店長に）

店長 貸出中です（自らを親指で指差し）

小池 だそうです

カンタ なんでコイツが把握してんだよっ

店長 いいよ、あんなの観なくて。目の毒だよ

小池 観なくていいです

カンタ くそ。「観るな観るな」と言われると観たくなるのは、何でだろう？

小池 あの、さつきから気になってたんですけど……

カンタ なに？

小池 そちらの方は？（ナツを示す）

カンタ ん？ ああ、中央線難民でここの店員さん

小池 ああ、よかった

カンタ よかった？

小池 いや、さつきから全く存在に触れないから、あたしだけに見えてた
らどうしようと思って

カンタ おやまあ、不思議ちゃんだねえ（笑）

小池 いやあ、第六感開眼かと思ってヒヤヒヤしました。ハーレイくんは
こんな気持ちだったんですね

カンタ 何言ってるのか、全然わかんねえや。はっはっはっは

小池 え、知らないんですか？ 『シックス・センス』

カンタ ……タメちゃん、今この娘、すごい卑猥な言葉を、

店長 言っていないっ

小池 え、お寿司屋さん。『シックス・センス』知らないんですか？

カンタ 何それ？ 都市伝説？

小池 映画ですよ、ハリウッド映画

カンタ あ、映画なんだ

小池 え、ホントに知らないんですか？

カンタ 監督、山田洋次？

店長 違うよ

小池 インド人です

カンタ ああ、パニック！
小池 あれだけ話題になった映画を、なんで知らないんですか？
カンタ ちなみにそれ、何年前ぐらいの映画？
小池 えっと、もう、十二、三年前ですね
カンタ ああ、たぶんその頃はアレだな、俺はマグロ漁船に乗って寿司にぎつてたわ
小池 え、そんなのあるんですか？
カンタ ああ、武者修行さ。もう来る日も来る日も、トロばっか！
店長 酔っぱらいの話だから、話半分よね
カンタ で、その『シックス・センス』？ っつのはどんな映画なの？
小池 とにかく、オチがすごいんです
カンタ 何なに？ どんな？
小池 それは言えませんよ。ブルース・ウィリスに口止めされてるんで知り合いつ？
店長 俺も口止めされてる
カンタ え、タメちゃんも……？ 中野の人？
小池 (笑) 観ればわかりますって
カンタ ブルースの住所？
小池 いや、それはちよつと
店長 どんな映画だ
カンタ 今日借りてみようかな。ある？ (店長に)
店長 俺に聞くな
小池 一週間百円なんで、よろしければ、ぜひ
カンタ ああ、百円かあ。やつすいなあゝ
小池 時代ですよねえ
店長 安過ぎるのも考えものだけどね
カンタ いいじゃん、中身は変わらないんだから
店長 そんなに安くなるものを、千円以上払って映画館まで観に行かない
だろつ？
カンタ あ、なるほど
小池 でも、ウチの百円レンタルも、ネット配信に対抗する最後の手段みたいなどころありますから、先は見えないんですよええ

店長 そうは言うけどさ、大変なんだよお、百円と戦うのは。映画もハンバーガーも

小池 あ、なるほど(笑)

カンタ ん、今のはどういう意味？(店長に)

店長 うるさい

小池 ……あ、そろそろ、あたし、どっかで夜食にありつかないと、

店長 え、マック？

小池 いえ、コンビニで適当に(立つ) なんか、その、いろいろすみませんでした

カンタ ええ、帰っちゃうの？ まだいなよお

店長 からむな。いや、こちらこそ、申し訳ない。今度営業時間内に来てくれたら、ちよつとはサービスさせてもらうんで

小池 ありがとうございます。じゃ、今度バイト前に利用させて頂きます

BGM 「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」スタート

そこに、二階から踊り場にマヨが降りて来る。

続いて、ナ●シカに背負われた紅が現れる。

マヨ でね、そこで彼はこう言ったの、「こいつは……とんだバーベキューだ」ってね

マヨ・ナ●シカ (爆笑。マヨ「バーベ、バーベ」と挟む)

ナ●シカ (笑い止み) はあり、だから地方のジャスコはデカイのかあ

店長 あの、終わったんですか？

マヨ 何が？

店長 いや、台本

マヨ 全然

紅 書けない……

マヨ 話だけ盛り上がって、何のアイディアも出ないパターンだったわね

ナ●シカ そして彼はもうボロボロだ

マヨ 早く行こうぞ

マヨ、ナ●シカ、歩き出す。

店長 え、あの、帰ってくれるんですか？

マヨ (立ち止まり) いいえ！ あたしは女優！

店長 いや、それは聞いてないんですけど……あの、どちらへ？

マヨ ツタヤ

ナ●シカ 話してばかりいても仕方ないからね。参考までに、これまでどんな作品がどんな終わり方をしたか、タイトルを見て思い出してみようと思ってるね

マヨ 参考よ、参考。パクリじゃないから

店長 ……はあ

紅 書けない……

マヨ きつと、大丈夫よ、先生。……明日は、今日が、昨日なのよ

ナ●シカ ……ああ、いいこと言うなあ

カンタ そうか……？

ナ●シカ さあ、行こう！ 紅！

マヨ、ナ●シカ、歩き出し、店を出て下手方向へ移動する。

紅 ナ●シカ……、体臭キツイ……

ナウシカ ああ、これがリアリテイーだ

マヨ (鼻歌で、「ランララ・ランランラン」とナ●シカのあの曲)

三人、完全に去る。

小池 な、何なんですか？ 今の！

店長 さあ、何なんでしょう？

カンタ 複雑なバカだね

小池 面白いっ

店長・カンタ へ？

小池 ちよつと行ってきました！（と、下手へ去って行く）

店長 え、あれ、ちよつと

カンタ ……若いつてのは、いいねえ

店長 そういう問題じゃ、……ん、慎之介は？

カンタ あれ
店長 え？

店長、二階へ上がって行く。

店長（声） 慎之介っ！

カンタ おお？

ナツが、スツと立って、スススツと歩き出す。

カンタ お？ お？ ん？

ナツ、スススツと店の外へ行き、上手へ去る。

カンタ あれ？ おいおい……、おい……

二階から、慎之介がバタバタと降りて来る。

ゴムチューブで手を縛られている。脚は、ほどいてもらったチューブが片足に引っ掛かっている。一階に降りて来て、少し安心した様子。
続いて、店長が降りて来る。

慎之介 （座り） いやー、もお、まいったー

店長 ギムチューブでイスにくくり付けられてたよ

カンタ なんか物騒だね。何よ、慎ちゃん、何があったの？（と、言いながら慎之介の手のチューブを外してあげる）

慎之介 いや、俺が逃げようとするからって、ナ●シカが自前のコレであつという間に

カンタ へえ、こんなもん持ち歩いてるんだなあ

慎之介 アイツ曰く、「ゴムチューブほど多機能で便利なものはない」
すよ

カンタ そんなもんかねえ

慎之介 調子のいい日は、これでプードル作れるらしいです

カンタ あ、あの器用貧乏め
店長 あれ、ナツちゃんは？
カンタ ああ、なんか、スススーッと出てっちゃったよ
店長・慎之介 えっ！
カンタ え、何？
慎之介 マズイですよ
カンタ 何が？
慎之介 ナツさん、軽く夢遊病気味なんです
店長 いや、アレは軽くもないし、気味でもない
カンタ いるんだ……、そういう人
慎之介 去年の忘年会なんか、トイレでも行ったかと思ったら、捨て猫三匹
かかえて帰って来たんですから
カンタ それは、何というか、人情味のある夢遊病だねえ
店長 そんなで、本人、記憶ナシ
カンタ まったく？
店長 うん。一度なんか、マクドナルドの制服着て帰って来たからな
カンタ え？ それは、え？ どういうこと？
慎之介 全然わからないんです
店長 何をどうしたのか、未だにミステリー
カンタ うん。ていうか、怖い
店長 怒りようもないしな
カンタ 大丈夫？ 探しに行った方がいいよね？
店長 ヤツは意外に動きが速いから、今まで見つかったことがないんだ
カンタ ヤツ……
店長 ヤツは一応、帰巢本能があるから、帰ってくると思うんだけど
カンタ ヤツ……
慎之介 経験上、待つのが一番です
カンタ ……うん。まあ、そう言うなら
慎之介 (小声で) ……いやあ、でもよかったあ
カンタ 何が？
慎之介 (カンタに小声で) いや、だから、俺が二階にいる間に、来ちゃつたらマズイと思つて

カンタ 来ちゃったら、って、小池さん？

慎之介 はい。……………。……………なんで名前知ってるんですか？

カンタ なんてって

慎之介 俺、名前言いましたっけ？

カンタ 言っけないと思うよ

慎之介 え…………？

カンタ 来たよ

慎之介 ……………

カンタ 慎ちゃん、加藤って言うんだね。カトウシンだね（笑）

慎之介 ……あ、あの、店長、これはですね、

店長 おい、カトウシン！

慎之介 いや、あのですね、これは…………

店長 （遮って）話は、聞かせてもらったよ

カンタ あの娘、いい娘だね

店長 （慎之介の向かいに座る）……………まあ、なんだ。隠れてコソコソやっ

てたワケだから、やっていいことと悪いことの分別は付いてるんだろ

う。それを今さら諭す気はない。俺はお前の親じゃないからなあ

慎之介 ……すみませんでした

カンタ 慎ちゃんね、さつきからずっと謝ろうとはしてたんだよ

店長 カンタは黙っててくれ

カンタ ホントだよ…………？

店長 いいから。…………俺はな、売り物をタダにして、その貸しを恋愛の駆

け引きに使うとする根性が気に食わない。ましてや、その売り物は

お前自身が作ったものだ。仮にも飲食のプロだったら、その対価は愛

情や気持ちでもらうな。金でもらえ

慎之介 ……………

店長 それが、売り物に対して、誇りと覚悟を持つということだ

慎之介 ……………

店長 その辺がわからないうちは、いつまで経っても一人前とは呼べない
な…………

静寂

そこに上手より、マキノがサーッと現れて店長に後ろから抱きつく。
マキノ、一見して水商売風の身なり。露出は控えめ。

マキノ ターメちゃん、タダでハンバーガーご馳走になりに来たよっ
他一同 …………… (微動だにしない)

マキノ (腕をほどきながら) さあさあ、さあさあ、本当に「抱かれたくな
るくらい美味しい」のか、早く食べさせてっ

他一同 …………… (微動だにしない)

マキノ あ、カンちゃん。カンちゃんもタダメシ組？ 悪いんだあ

慎之介 ……あ、あの、こちらはどちら様でしょう？ (カンタに)

カンタ うん……、スナック順子のマキノさん

慎之介 あ、最近お二人が通い上げてる、噂の……

マキノ マキノですっ。好きな大統領はニクソンですっ

店長 ちよちよちよ、マキノさん！

と、店長、マキノを店の外まで連れ出す。

マキノ え、え、何？

店長 なんで今日来るんですか？

マキノ だって約束したじゃない

店長 だから、それは木曜って話じゃないですか

マキノ 今日、木曜よ

店長 え？ あ、いや、日付変わってそうかも知れませんが、木曜の夜っ
て言ったら、普通明日でしょ？

マキノ あ、そっか。そういうこと。いや、あたし達、夜起きてる時間の方
が長いからさ、ごめんごめん(と、店の中へ入って行こうとする)

店長 いやいやいや(マキノを止める)

マキノ ん、何なに？ 別に今日でも作れるんでしょ？

店長 それはそうなんですけど、今日はダメなんです

マキノ ええ、困る(結局、店の中に入って、座る)

カンタ なに、マキちゃん、どうしたの？

マキノ あたしさあ、実はさ、逃げてきたんだあ

カンタ え、何それ？

マキノ また、北沢不動産の社長が来ててさ、

カンタ ああ、あの入

マキノ もう、触る触る、半ば揉むで、もうやんなっちゃった。何事にも限度ってものがあります

カンタ はい、気を付けますっ

マキノ (店長に) だからさ、ちよつとここで休憩させてよ

店長 それは、まあ、構わないですけど……

マキノ じゃ、構わなーい(と、テーブルに体を預けて、くつろぐ)

カンタ、慎之介、店長に歩み寄り、

カンタ タメちゃん、抜け駆けはナシって言ってたよね！

店長 あ、いや……

慎之介 店長、誇りと覚悟って、話は何だったんですか？

店長 いや、大事ことだよ……？

慎之介 「抱かれたくなるくらい美味しい」って最低じゃないですか！

店長 その……、あ、ナツちゃん。俺、ナツちゃん、探して来るわ

カンタ さつき待つのが一番、て

店長 いや、やっぱり心配だしさ。ははは……

店長、上手へ去って行く。

カンタ 逃げやがった

慎之介 ですね

マキノ ねえ、カンちゃん

カンタ はい？

マキノ カンちゃんも中央線で帰れなかったクチ？

カンタ いや、というかね、今日、タメちゃんとマキちゃんのところ行くつもりだったんだけど、足止め食っちゃって(座る)

マキノ そうだったんだあ

カンタ うん。それでさあ、珍しいモンで、タメちゃんから「相談がある」

つて呼び出されたのよ

マキノ へえ、意外！

カンタ な？ タメちゃんが相談される方は散々見てきたけどさ
マキノ 基本いい人丸出しだからねえ

カンタ それが逆だもん！あれ、何の相談だったんだろう？

マキノ さあ、見当付かないね

カンタ ね

マキノ で、タメちゃんはどこ行っちゃったの？

カンタ ああ、なんか、山手線の駅名叫びながらどっか行っちゃったよ

マキノ それは、ヤバイね

カンタ ああ、アイツはヤバイ奴なんだ

マキノ そっちの彼は店員さん？

慎之介 あ、はい

カンタ 慎ちゃん。加藤慎之介。通称、カトウシン

慎之介 それ誰も言ってないですからね

カンタ 現在、片思い真っ最中

慎之介 ちよつと、カンタさん

マキノ 久々に聞いた、「片思い」って言葉。うは、甘酸っぱー

慎之介 どうもすみません！

カンタ 珍しくないよ。だって、男はいつだって片思い予備軍なんだからさ

慎之介 うわ、オヤジ！

マキノ いいえ、違うわよお。いい？ 若者が「片思い」で、オジさんの

「下心」

カンタ わ、ひっでー。そして、大正解

マキノ だしよ！（笑）

カンタ・マキノ あっはっはっは（笑）

慎之介 ……これが、スナック

マキノ それで若者よ。君の片思いは今、どんな具合なの？

慎之介 あ、そうだ。カンタさん、小池さんはどこ行っちゃったんですか？て

か、何話したんですか？ 僕のこと何か言ってませんでしたか？

カンタ そんないつぺんに聞かれても

マキノ 焦るな、若者よ。……男が焦っている姿ほど、女にとって見苦しい

ものはないんだよ

慎之介 は、はあ

マキノ これだけは覚えておいて。男はね、「余裕」

カント・慎之介 「余裕」？

マキノ 男に「余裕」がないと、女は一緒にいて不安なの。

慎之介 余裕……

マキノ だから、まずはウソでもドシツと構えて。ほら、座んなさい

慎之介 はい……（座る）

マキノ で、もう告ったの？

慎之介 いやいや、そんな。まだまだ

マキノ なんて？

慎之介 なんてって、だって、そういう段階じゃないんで

マキノ 段階、と言いますと？

慎之介 だから、そういうことはもっと仲良くなって、段階的に進めていく

べきじゃないですか

マキノ バツ、もう、バツ、バツ、カだなあ

慎之介 な、なんでですか

マキノ ねえ（カントに）

カント ええ、もちろんです

マキノ そういうのはね、ちゃっちゃと言っちゃうの

慎之介 いや、でも、

マキノ あのねえ、その段階的に近づかれる身にもなってご覧なさいな。も

うね……めんどくさい

慎之介 そうなんですか……？

マキノ 「意を決して下の名前と呼んでみる」とかもう……めんどいのっ

慎之介 ほほお

マキノ だからね、「あ、いい雰囲気になったな」と思ったら、男らしく、ズ

バツと気持ちをストレートに伝えたらいいのよ

カント いや、マキちゃん、さすが！

慎之介 そういう、もんですか

マキノ そういふもんですよ。で、その小池さん？ は、どこのお知り合いなの？

慎之介 知り合いというか……

カンタ ツタヤの店員さん
マキノ あら、お隣さん？ やるう！
慎之介 どうもすみません！
マキノ お店で声掛けたんだ？
慎之介 まあ、そうですね
マキノ そっからお近づきになれるなんて、大したモンじゃない
慎之介 いやあ、佐世保バーガーのおかげです
カンタ ご馳走するって、釣りやがったんだよ
慎之介 カンタさん、言い方
マキノ ふ〜ん（笑）で、どんな感じの娘なの？
カンタ まずね、見た目が可愛らしくて、
マキノ おお、きた
カンタ 年の頃は二十代前半、
慎之介 二十三です
マキノ いいねえ、若いねえ
カンタ そして、ブルース・ウイリスの親友
慎之介・マキノ ええっ！
慎之介 ……なんですか、それ
カンタ わかんないけど、そんなこと言ってたよ、さっき
慎之介 知らなかった……
マキノ 彼女の二十三年に何が……
カンタ ね、俺も謎なんだよ
慎之介 ひとつ、彼女に質問ができました。ありがとうございます
カンタ い〜え
マキノ 誰に似てる？
カンタ 誰ってのは浮かばないけど、アレかな、小動物の毛深くない感じ
マキノ ん、うん……ん？
カンタ なんて言ったらいいか……、あ、生で見に行ったらいいよ、ツタヤ
マキノ に
え、今働いてるの？
カンタ いや、休憩中とは言ってたけど
慎之介 ツ、ツタヤに戻ったんですね？

カント うん

慎之介 ハンバーガーご馳走してもらえないから、怒って帰っちゃった、とか？

カント いや、全然そんな感じじゃなくて、あの作家さん御一行を見て、「面白いつ」て付いてっちゃったよ

慎之介 面白い？

カント 変わってるよねえ

慎之介 アニメ好きとは言ってたけど、……あんなんでいいのか。ちよつと、俺、行つてきます（立つ）

カント え、ツタヤ？

慎之介 ええ、謝つて来ないと（行こうとする）

マキノ ねえ、待って

慎之介 何ですか？ 大丈夫です、俺「余裕」っス

マキノ あ、それもいいや。あのさ、ひよつとしてなんだけど、その小池さんて、あたしと同じじゃない？

慎之介 同じじゃないっ！

マキノ うん、「余裕」ないな、若者よ。そうじゃなくて、小池さんも、ハンバーガー食べに来て、食べられなかったパターンじゃないの？ って

話

慎之介 そう、ですね。それが、何ですか？

マキノ 手ぶらで行くの？

慎之介 え？……と、言いますと

マキノ あたし、今お腹空いてるんだけど

慎之介 何か食べたらいじじゃないですか

マキノ だからよう（怒） 慎之介くんのせいで、小池さんはお腹を空かせるかもしれないよ、ってこと

慎之介 あ、はい

カント あ、しょうがないからコンビニで、とか言ってた気がする

慎之介 え

マキノ ほら……。だからさ、お詫びもかねて何か持ってたたら？

慎之介 何ですか、冷やし中華ですか？

マキノ いや、それはわかんないけど

カンタ　でもさ、ハンバーガー食べたい時に冷やし中華出されたら、ちよつと腹立つよね

慎之介　じゃあ、マックですね、マック

カンタ　あ、マックは気分じゃないって

慎之介　もお、ワガママだなあ

マキノ　コラコラコラ。ここはね、無難に行くのが一番よ

慎之介　無難？

マキノ　甘いものってのは、どう？

カンタ　あ、無難

マキノ　お詫びって感じもするし

慎之介　でも、メシ食いたいの甘いものですか？

マキノ　大丈夫よ、若い女なんてね、ごはん食べなくても甘いもの食べてキヤーキヤー言ってるうちに一日が終わってくんだから

ヤーキヤー言ってるうちに一日が終わってくんだから

慎之介　そんなもんなんですか？

マキノ　そんなもんよ

慎之介　はあ、じゃあ甘いものを……、あ、甘いものって言っても大分種類

がありますよね

マキノ　（即答）マカロンね。マカロンが食べたい

慎之介　それはマキノさんの好みじゃ……

マキノ　大丈夫よ、若い女なんて、マカロン上アゴにくつつけてキヤーキヤ

ー言ってるうちに……

慎之介　（遮って）行つてきますっ！

慎之介、上手へ去って行く。

マキノ　いいねえ、若いねえ

カンタ　なんだか、舞い上がっちゃってるよね

マキノ　いいのよ、あんなんで。恋愛なんてさ、ダメな時は何やってもダメ

なんだから、やるだけやったらいいのよ

カンタ　ま、確かにそうね（立ち上がり）マキちゃん、まだいるよね？

マキノ　え、マカロン買って来てくれるの？

カンタ　え？ いや、……トイレ（二階を指差し）

マキノ な〜んだ

カント あ、じゃ、トイレ行ってから。そのあと、買って来るから

マキノ やった、ありがと〜

カント (階段前で止まり) ……ビール飲んでさ、飲んだ分だけしよんぺんしてると、「あれ？俺何やってんだろ？」って気持ちにならない？

マキノ え、どういうこと？

カント 俺さ、自分の体がビールをトイレに運ぶ容れ物みたいに思えてくるんだよね(トイレ行きたさに少しモジモジしながら)

マキノ それ、すごい感覚

カント (モジモジが徐々に大きくなる) これならさ、俺がビール飲んでトイレに行くんじゃないかって、もう直接便器にビール流し込んで、ひよつとして同じことなんじゃないかと……(終りは股間押さえ気味)

マキノ (遮って) いいから早く行ってこいっ

カント う、うん(急いで二階へ去る)

マキノ ……子供かつ。……ん、あら、ひとり

マキノ、ひとりきり。所在なげにタバコを取り出し、火をつけようとする。タバコをくわえたところで、下手から

マヨ、ナ●シカ、紅、小池が順に現れて、話しながら

店内に入り、階段を上がって去って行く。

小池は、『機動戦士ガ●ダム』のア●ロ・レイのジャケットを着ている。

ナウシカ つまりだね、「めでたしめでたし」って、どうなったんだ？ ってこ

とだよ

マヨ ハッピーエンド、結構じゃないの

小池 でも、いい時にピリオド打っただけですよ

ナウシカ そう、まさにその通り。それから、「幸せに暮らしました、とき」って、彼らの幸せとは何だい？

マヨ それを定義するのは、違うと思うわ

ナウシカ 大事なことだろう。確かに経済的な安定ならば、彼らは……

紅以外の三人、話しながら二階へ去る。紅は腕組みをして黙って歩く。

マキノ、呆然。

そこに、店長が下手より帰って来る。店内へ。

店長 あ、マキノさん。よかったあ。いやあ、さっきはすみませんでした
マキノ ……………

店長 あれ、ひとり？

マキノ ……ねえ、

店長 ……………？

マキノ 何屋？

店長 ……へ？え、どういうことですか？

マキノ 祭り？二階、祭り？

店長 え？え、ちよつと、……あ、アレか

マキノ 彼らは何？

店長 いや、何と言われましても……何なんでしょう？

マキノ なんか、世界観が共通しているようで、ゴチャゴチャで……

店長 ああ、確かに

マキノ ジ●りに、デ●ズニーに、ガ●ダムに……

店長 え、ガ●ダム？……増えてる？（二階を見やり）

マキノ いつもこんな？

店長 いやいや、今日だけ。今日だけ、ものすごいイレギュラー。どうか

お気にナサラス

マキノ ふーん。……なんだかよくわかんないや

店長 カンタとウチの店員は？

マキノ カンちゃん、トイレ。慎之介くん、マカロン

店長 マカロン？

マキノ 女の子にあげる、ハンバーガーの代わりにマカロンだって

店長 へえー、マカロンってチョイスはどうかと思いますけどねえ

マキノ へー！あたしはいいと思うなー！

店長 そ、そうですか……。あ、マキノさん、改めて……。せっかくお呼

び立てしたのに、ご馳走できなくてすみませんでした。呼んだのホン

トは明日ですけど

マキノ ね、ね、今作っちゃえば？

店長 え、それは……もう火い落としちゃったし、それに……さっき、私的にハンバーガー作ろうとした慎之介を、叱ったばかりだし、ちよつと……無理かなあ

マキノ あはは、はいはい、了解了解

店長 ほんと。今度、営業時間に来て下さい。少しはサービスさせてもらいますから

マキノ うん、じゃ、それで

店長 ごめんなさい

マキノ ……タメちゃんさ、今日ウチの店に来るつもりだったんでしょ？

店長 ええ、カントと一緒に

マキノ うん、さっきカントちゃんから聞いた。タメちゃんが相談あるって

店長 え、……うん、まあ、そうですね

マキノ それって、もしかしてこないだ話してた……

遮るタイミングで、二階からカントが降りて来る。

カント あ、タメちゃんじゃん。まったく、どのツラ下げて帰ってきたん？

店長 俺の店だ、ここは。……とはいえ、すんませんでした

カント いゝえ。で、ナツちゃんは？

店長 いや、一応探したけど見当たらなかった

カント どこへ行ったのやら

店長 あ、中央線、もう動いてたぞ

カント ホント？ そりゃ助かった

マキノ ええ、二人とも夜通しウチで飲んでけばいいのにい

カント いや、俺もそう言ったんだよ。でもタメちゃんがさあ

店長 グチグチ言うな。それにこの状況で帰れないだろ

カント あ、それなんだけどね。ぼちぼちまとまりそうよ、二階

店長 ホントに？

カント あの娘、小池さんも混じってたけど、ありやなんだ？

店長 ああ、あのまま加わっちゃったのか

カント ガンダムの格好してたぞ

店長 え、ガンダムって小池さん？ ……何をしてるんだ？

カンタ なんだろね。あ、でも、作業はもう最終段階だって
店長 え、本当？

カンタ あとは、あの作家さん次第みたいだけど

店長 なんでもいいから早く終わってくんないかなあ

カンタ いやあ、(笑) トイレから出てきたらさ、ナウシカと悪い妃が実演してんだもん。驚えた驚えた

マキノ ねえ、ねえ、何の話？

店長 あ、途中からは無理です

カンタ でも、作家さんが納得しねえのよ、「リアリティーに欠ける」って

店長 もお、そういうこだわりとか勘弁してくれないかなあ

カンタ あと、ひと押しって感じだけどね

店長 じゃ、もう俺が押してくるよ(行こうとする)

カンタ (止める) はいはい、どうどう、タメちゃんタメちゃん

店長 いや、ちよつと(もう一回行こうとする)

カンタ (止める) はいはい、どうどう、タメちゃんタメちゃん

店長 もう(あきらめる)

店長、座る。カンタ、ふと思いつき、思索。

カンタ ……ん、いや待てよ。……はい、はいはいはい(ニヤリ)

店長 ん？

カンタ ちよつとちよつとマキちゃん

マキノ 何？

と、カンタ、マキノの手を引き、二階へ行こうとする。

マキノ、連れて行かれながら、

マキノ え、ちよ、何？

店長 え、何？どした？

カンタ タメちゃん、ちよつと待ってて

店長 何？どうしたんだよ

カンタ いや、ちよつと、手え洗ってくるの忘れたわ

カントにバツチリ手を握られているマキノ。

マキノ　え？手？え？

カント、マキノ、二階へ上がって行く。
ひとり残される、店長。

店長　……何なんだよ。(ため息)……もお

店長、店内を片付け始める。
階段から、紅ゆっくり降りてくる。だいぶ弱っている。

店長　え、……え？

紅、悠々と歩き、中央卓へ悠々と座る。弱っている。

店長　……あの、二階、あなたがいないといいんですか？

紅　え？

店長　あなたがいないと話が進まないでしょ

紅　いやあ、私がいなくても、皆さん楽しく盛り上がってます

店長　いや、そういう問題じゃ……

紅　ははは(力なく笑う)……ふう〜

店長　えつと……

紅　店長殿、よろしかったら(席を促す)

店長　いや、でも……

紅　(見つめて同情を誘い、……ため息)ふう〜

店長　あ、はい

店長、紅の向かいに座る。

紅　……店長殿、……私ね、……寝てないんです

店長　(紅のTシャツを見る)……。……あ、……はい、まあ

紅 店長 ダメですね。人間、寝てないと、どんどんネガティブになってくる
紅 店長 はい
紅 結局のところ、人間は身体ですなあ。身体が疲れて弱つてくると、
店長 思考まで弱気になってくる。眠らないとイカンですよ
紅 店長 そう、ですね
紅 私、もう若くないんで、すぐ疲れてすぐ弱気になってしまいます。
店長 まいりました。あはっ、あはははっ！
紅 あ、はい〜……。じゃあ、もうすぐにでも書き上げて、お休みにな
店長 られた方が、ね
紅 店長殿、ちよつと、ご相談に乗っていただけませんか？
紅 え、相談って……。私は、演劇のことは全然
紅 いえ、そういうことじゃなくて、ですね……。あの、……仕事、面
店長 白いですか？
紅 え？
紅 仕事、面白いですか？
店長 それは、また唐突ですね
紅 すいません。ちよつと紅、唐突でした
店長 そうですか、仕事……。でも、仕事は、仕事ですからね。どうなん
紅 でしょう
紅 私、正直、全然面白くないんですね。何でこんなことやってるんだ
店長 ろう、つてよく思います
紅 そう、ですか……
紅 人にどうこう言われながら、やっとの思いで書き上げて、今度は書
店長 き上げたものをまたどうこう言われるんです。もう、ワケがわからな
紅 くなります。仕事って、そんなもんですかね？
店長 ん〜……。まあ、そうですね、人に何かを提供するというのは、評
紅 価がまとわりつくもんですから
紅 評価……ですか
店長 我々で言うなら「美味しいかどうか」
紅 あ、なるほど
店長 お客さんにとっては「結果」が全てですから、「過程」なんて全く無
店長 視です。そして、「美味しくなければ」次はない。そこは徹底してシ

ビアですよね

紅　　ですか……

店長　紅さんの仕事だって同じでしょ？

紅　　そうですね……。我々の場合は「面白いか、否か」か（ため息）

店長　「面白い」って、大変そうですね

紅　　そうですねすつ……というより、

店長　はい？

紅　　いや、その

店長　なんです？

紅　　店長殿、ちよつと、ご相談に乗っていただけませんか？

店長　……あれ、デジャヴ？

紅　　店長殿、「面白い」って何なんですかね？

店長　……それ、聞いちゃいます？

紅　　いや、私ね、随分前から「面白い」ということがわからなくなっているんです

店長　わからない……？

紅　　いろんな人にいろんなことを言われる度に、マジメに考え続けてきました。そうして増えたのは、知識ばかり。今ではその知識のおかげで、自分自身は何を「面白い」と思っているのか、わからなくなってきました。……面白いでしょ？

店長　いや、それは、面白くないでしょ

紅　　ですよねえ……。……店長殿、さつきはああ言いましたが、実は私の書いている作品、パクリなんです

店長　ええー？……今さらあ？

紅　　いや、特定のモデルの作品があるわけではないですよ

店長　ええー……。お前面白えよ

紅　　「パクリ」の基準ということですよ

店長　それは……？

紅　　もはや私の創作の判断基準は、「あの時あの人がかこう言っていたから」とか、そんなんばかりです。「私」ではない、「パクリ」の基準なんです

店長　……………

紅 そうやって出来上がった作品は、きっと、誰かにとって面白い作品なんです。私にはよくわからないですけど……

店長 ……………

紅 （気丈に笑う）おかしな話をしてしまいました。きっと寝てないからですね。忘れてください

間。

店長 ……私は、紅さんのことも、紅さんの世界のこともよくわかりません

紅 私もよくわかりません

店長 ただ、ひとつだけ言えるのは、紅さんがこうやって作品を作り続けているのも、悩んでいるのも、理由はひとつなんじゃないか、ということですよ

紅 ひとつ……

店長 それは、「好き」だからじゃないですか？

BGM、スタート。

紅 好き……？

店長 じゃなかったら、そんなに頑張れてません、て

紅 ……………

店長 もし、今わからなくなってしまったのなら、始めた時に何が「好き」だったのか、思い出してみたらいいと思います

紅 始めた、時？

店長 だってそれは、あなたの人生を大きく左右した、オリジナルでしょ？

紅 ……………

店長 人間にとってのオリジナルなんて、きっと「好き」という感情だけなんじゃないかと、私は思うんです。……それを思い出せたら、紅さんにとっての「面白い」、思い出せるんじゃないですか？

紅 ……なるほど、……うん。こういうことか

二階からソロリソロリと、
ナ●シカ、マヨ、小池、マキノ、カンタが降りて来る。
皆、店長の背後に位置する具合。
ナ●シカの手には小振りのラジカセがある。
ナ●シカ、ラジカセのスイッチを切る。
BGMカットアウト。

ナ●シカ ……どう？

店長 (ビクツとして振り返る)

紅 ……いい

ナ●シカ ……な？

紅 はい

ナ●シカ よさげだろ？

紅 よさげでした

店長 え？ え？

マヨ ナウシカ先生の言ってた通り……

ナ●シカ そう、そうなんだ。(ラジカセを再びスタートし、その音楽にノリながら) よさげな言葉をよさげな音楽に乗せると、よさげな気持ちを引き起こすのだ。多少言葉がたなくても、展開が強引でも、よさげな音楽さえあれば、よさげになってしまおうんだ

店長 ……あのお、

ナ●シカ だから、紅。お前も、ラスト思い切つて、よさげな音楽に乗せて、よさげなセリフ書いてみたらいいじゃないか

紅 ええ

ナ●シカ どんなんだっけ？ (音楽止める)

紅 「愛は地球を救う」

ナ●シカ おお、斬新だなあ

マヨ それじゃあ、いよいよ完結ねっ

紅 よし、これで書ける……、書けそうな気しかしないつ

他一同 (店長以外) おお〜

紅 店長殿、よさげにご協力ありがとうございました

店長 いや、あの、私は……

紅、スツと立って階段へ。階段の途中で振り返り、

紅 全てを終わらせてくる

マヨ 天ちゃんっ、カツコいいー！（ムダに蒲田行進曲）

ナ●シカ よし、紅っ。見届けさせてもらおうぞっ

紅に続き、マヨ、小池、ナ●シカ、二階へ去る。

と、思いきや、ナ●シカはどさくさに紛れて、キッチンへ潜り込む。

一階フロアには店長、カンタ、マキノ。

カンタ いやあ、お疲れお疲れ

店長 ……何、これ？

カンタ ん？

店長 この状況

カンタ よさげ？

店長 「よさげ」って？

マキノ ちよつとした検証ね

店長 検証？

カンタ 「よさげな音楽はセリフをよさげにできるか？」だって

店長 えつと、……それは、……ん？

カンタ タメちゃん、とつてもよさげだったよっ

マキノ うんっ。タメちゃん、よさげっ

店長 ん、褒められてる気がしない。……あの、えつと、俺は今、何をしたの？

カンタ 最後の、ひと押し

店長 ひと押し……？

カンタ タメちゃんのリアルな実演で、あの作家さんもようやく納得したもんね

店長 実演？リアル？

カンタ タメちゃん、実演。作家さん、観客

店長 え？

マキノ タメちゃんのセリフ、よさげだったっ

店長 いや、俺は、ただ相談に乗ったというか……

マキノ 店長殿、人の良さを逆手に取られましたな

カンタ タメちゃんさ、相談されたら応えずにいられないもんね

店長 え

マキノ 「それは、あなたの人生を大きく左右した、オリジナルでしょ？」

カンタ よさげですなあ（笑）

マキノ・カンタ （笑）

店長 え？あれ？え、これ、俺、怒っていいんじゃない？

カンタ （店長にじやれて絡み）はいはい、タメちゃん怒らない怒らない。

ねえ、怒っちゃあよ。……これで抜け駆けした件、チャラにしてあげるから

店長 え、ちよつと、え、汚え……

そこに慎之介が上手から下手へ、店の前を走って通り過ぎようとする。
手にはコンビニ袋。

店長 あ、慎之介！

カンタ ちよ、ちよ、慎ちゃん慎ちゃん！（入り口から呼び止める）

慎之介 えっ、はい？

カンタ こっち、二階。小池さん、二階にいる

慎之介 は、はいっ（と店内へ入る）

マキノ 遅かったじゃない。どこまで行ってたのよ

慎之介 いや、全然マカロンなくて、いくつもコンビニ渡り歩いちゃって

マキノ それで、どんなマカロン買って来たのよ？

慎之介 いや、結局マカロンなくて、ナボナを（袋からナボナ出す）

マキノ でけえよ！

慎之介 これ甘いし、構造もマカロンに似てるからいいかなって

マキノ だから、でけえのよ、ナボナはっ

慎之介 そうか、ナボナはでかいのか

カンタ なんでマカロンなくてナボナあんの？

慎之介 あ、贈答用のナボナっス

店長 あの、ナボナナボナ言ってる所悪いんだけど、今度はどうい

状況？

カンタ だから、ハンバーガーの代わりにマカロンの代わりにナボナだよ

店長 ーン？

マキノ まあ、別にマカロンの代わりにいいけどさ。ちよつと待
つてて、今呼んで来るから

慎之介 あの、なんで二階に

マキノ さあ、姿見たら納得するんじゃない？（二階へ去る）

慎之介 え？

間

店長 ……あの、慎之介。さっきは何ていうか、その……すまなかつたな。

自分のことを棚に上げて、エラそうにさ

慎之介 いえ

店長 全然格好つかないけど、……許してほしい

慎之介 いや……、俺の方こそ、すみませんでした

間。

カンタ まあまあ、いいじゃねえか、過ぎたことは。まあ、なんだ。二人と

も似たもの同士ってことじゃん？

店長 まあ、そうだな

カンタ これからも、どスケベ同士つ、仲良くやりなよ

店長 ……

慎之介 あ、はい……

二階から、マキノと小池が現れる。

小池、なんかツボにハマってて、笑いが止まらない。

マキノ ごめん。変な時に連れてきた

小池 （ツボ笑）田中、角栄……、田中……角栄、誰、それ……（ツボ笑）

店長 混乱が降りてきた……

慎之介 ア●ロ……？

小池、階段を降り切り、一階フロアへ。

マキノ ほら、タメちゃん、カンちゃん。ジャマしちゃ悪いわよ。こっちは
らっしやい

店長 え、ああ、そういう感じなの？

カンタ じゃあ、あとは若いものに任せて……

店長 あ、言いたかったヤツだろ（二階へ向かいながら）

カンタ そうそう、言いたかった言いたかった（二階へ向かいながら）

マキノ じゃ、しつかりね、若者よ

慎之介 はい

マキノ、店長、カンタ、二階へ去る。

慎之介、中央テーブルの下手寄りに座り、小池を促し、座らせる。

小池 いやあ、……知らない人のモノマネは、似てるのかどうかわかりま
せんねえ

慎之介 えっと、何の話かな？

小池 いや、あの女優さんが、「まあ、このお」って（思い出し笑い）

慎之介 うん、OK OK。それも、いいや。あのさ、その格好、何？

小池 はい、これは二〇〇六年十二月『機動戦士ガ●ダム』DVDボックス
ス発売キャンペーンの販促で使った、地球連邦軍の制服のレプリカで
す

慎之介 なんとまあ、もつともらしいことを……

小池 もらったのに、なかなか着る機会なくて

慎之介 そら、ねえ

小池 おかしいですか？

慎之介 それはまた、すごい質問だね

小池 へへ、気に入ってます

慎之介 ……あ、コレ（ナボナ渡す）

小池 なんですか、コレ？

慎之介 ナボナ

小池 ナボナ？

慎之介 ほら、ハンバーガー作れなかったから、その代わりと思ってさ

小池 ありがとうございます。そういえば、食べるの忘れてました(笑)

慎之介 あ、時間大丈夫？

小池 はい、もうそろそろですね

慎之介 今日は、本当にごめん

小池 いいえ、全然。これ着れたし

慎之介 そっか、よくわかんないけど

小池 (ナボナのパッケージを見て) あ、コレ、形がハンバーガーに似て
ますね

慎之介 ホントだ。あ、……「ナボナは、お菓子のハンバーガーです」

小池 ちよつと何言ってるのかわかんないです

慎之介 うん。そか、うん

間

慎之介 なあ、ブルース・ウイリスって、普段何話すんだ？

小池 ……なぜ、その質問を私に？

慎之介 え、だって親友なんだから？

小池 誰が？

慎之介 小池さんが

小池 誰と？

慎之介 ブルース・ウイリスと

小池 ……加藤さん、だいぶおかしなこと言ってますよ

慎之介 ……確かに

小池 どうして私がブルース・ウイリスと……(笑い出す)

慎之介 ホントにな……(笑)

二人で笑う。ちよつといい雰囲気。

慎之介 ……俺さ、少しずつ距離を縮めてとか、段階的とか、そういうのち

よつと苦手だからさ、ハッキリ言うわ

間。

慎之介 ……もしよかったら、俺とつきあ(遮られる)

小池 (遮って) あっ、あの……

慎之介 ん？

小池 あ、……もし、よかったら、……私は、段階的に、少しずつ距離を縮めていく方がいいかなあ、なんて思います

慎之介 …………。……うん、だよねえ。(握り拳) ……大人たちっ

小池 こんなこと言ったら、笑われちゃうかもしれないんですけど、

慎之介 いや、笑わないっ

小池 あたし、フツうがいいんです

慎之介 フツう？

小池 フツうに暮らしていきたい、つてずつと思ってるんです

慎之介 そんな格好して何を……？

小池 これは地球連邦軍ではフツうです

慎之介 ……ん、受け入れようっ

小池 だから、人間関係も無理に頑張らないで、フツうに暮らしているうちに、段階的に、少しずつ、距離が縮まっていくのが、いいなあって思っています

慎之介 僕もそう思いますっ

小池 で、最終的に、「フツうって何？」って確認する必要があるくらい気の合った人と、フツうに生活していきたいと思ってます。……以上

慎之介 ……。

小池 いや、なんか言ってお下さいよ。いま私、結構恥ずかしいですよ(恥ずかしさから、なんか地球連邦軍のジャケットのエリを立てる)

慎之介 ……あの、……どうしたら、小池さんのフツうになれますか？

小池 (笑) さあ、ちよつとわからないです

慎之介 そこをなんとか、

小池 えつと……、わかんないです。でも、よくわからないからこそその、相性ってヤツなんじゃないですか？

慎之介 なるほど……。なるほど、よくわかりました

小池 はい

慎之介 で、どうやったら相性よくなれますか？

小池 聞いてました、人の話？

慎之介 いや、だって、わからないと何もできないじゃんか。具体的に行動

したいんだもの

小池 んー、……。じゃあ、

慎之介 はいはい、何？

小池 映画は好きですか？

慎之介 えっと、ちよつと……。したのなら……

小池 私は、映画が好きなので、映画の話もしたいです

慎之介 はい……

小池 私にとって、「観ているのがフツー」っていう映画があるにはありません

慎之介 それ！ それ教えて。それ、観るから

小池 結構ありますよ

慎之介 教えて。サーツとフツーに観ちゃうから（メモ帳を用意する。小池が挙げたタイトルをどんどん書き込む）

小池 じゃあ、行きますよ……

『ニューシネマ・パラダイス』、『ライフ・イズ・ビューティフル』、『リトル・ダンサー』、『ショーシャンクの空に』、『きみに読む物語』、『小説家を見つけたら』、『ターミネーター』、『フォレスト・ガンプ』、『レナードの朝』、『ランボー』、『レインマン』、『グッド・ウィル・ハンティング』、『シザーハンズ』、『ダイ・ハード』、『リバー・ランズ・スルー・イット』、『ダイ・ハード2』、『サイダー・ハウス・ルール』、『ダイ・ハード4』、『ビッグ・フィッシュ』、『アルマゲドン』、『シックス・センス』、『パルプ・フィクション』、『アンブレイカブル』、『12モンキーズ』、『ファイブ・エレメント』……

ナ ●シカが、カウンター内からスクツと立ち上がり、

ナ ●シカ ブルース・ウィリス多くね？

ナ●シカ、手には食べかけのベーコンのブロック。
間。

ナ●シカ、ゆつくりしやがみ、姿を消す。

慎之介 えっ、えっ！ ちよちよちよ、て、店長！ てんちよー！

店長、カンタ、マキノ、二階から降りてくる。

手には、それぞれUNOが。ゲーム途中だった様子。

店長 何なに？

慎之介 キッチン、キッチン

店長 え？

ナ●シカ、スツと立ち上がり、姿を見せる。

ナ●シカ 時に店主、次はこのベーコン、炙って食したいのだが、ガスの元せ
(遮られる)

店長 うおいつ！

ナ●シカ まあまあ、まあまあ。……で、ガスの元せ(遮られる)

店長 ふざけんな

ナ●シカ 君、食材の旨味を存分に発揮させないまま、客に提供するなんて、
悔いは残らないのか？

店長 お前は客じゃない！

ナ●シカ ……ほう、そう来たか

店長 もう、アンタは、いろいろ全部間違ってたよっ(ベーコンを取り
上げる) 0点だ、アンタ0点

ナ●シカ ふっ、……そこから始まるよう

店長 ……ああ？(呆れ笑)

ナ●シカ では、この辺で。私を呼んでる声がある(二階へ行くこうとする)

店長 (止める) もういい、アンタ帰れ

ナ●シカ 私は彼を見届ける義務があるっ！

ナ●シカ、気合いで道を開け、階段を上り始める。

店長 ……お前、そこにいたじゃねえかよ

ナ●シカ (階段途中で立ち止まり) 時に、お嬢さん

小池 ……はい？

ナ●シカ 私も好きだよ、……『ベイブ 都会へ行く』

ナ●シカ、二階へ去って行く。

慎之介 ……あれ、書き損じたかな？ (メモを確認する)

小池 え、いや、あの

店長 (カウンターへ入り) ああああ、もう、こんなに散らかしやがって

カンタ こりや動物の仕業だね (笑)

店長 笑いごとじゃねえよ

マキノ (慎之介に) ねえ、どう？ 言った通り、できた？

慎之介 ええ、あやうく

マキノ ん？

カンタ (外を見て) あれ？ え？ ちょっと、ねえ

慎之介 はい？

カンタ アレさ……

慎之介 え？ ……あ、アレは、

カンタ だよね……

店長 ん、どした……？ ……あ

ナツが下手より寝ながら現れる。

衣装が、ラピ●タのシ●タになっている。

慎之介 シー●あー！

ナツ パ●うー (寝言)

慎之介 うるせえ！

ナツ、そのまま店内に入り、皆が見守る中、元々いた席に座る。

ナツ ハッ（起きる。そして周りを見渡す）

店長 起きた？

慎之介 ナツさん、起きました？

ナツ （幾度かうなずき）……ああ、よかったあ。夢かあ

カンタ ははは、器用に怖い夢でも見てたの？

ナツ ええ。あたしが女優さんで、舞台上で出オチする夢を見ました

何とも言いようのない、間

ナツ ちよ、慎ちゃん慎ちゃん（慎之介を手招き）

慎之介 え、何？ なんです？（ナツに寄る）

ナツ （小声で、小池を指差し）あの娘、おかしな格好（笑）

慎之介 お前が言うな（ナツをハタク）

ナツ え？（自分の格好を確認）……あれ？ うわ、あれ？……ああ、また？ またやっちゃいました？（店長に）

店長 みたいだね

ナツ 起こしてくださいよお

慎之介 起こしましたよっ

ナツ そこを何とか、ちゃんとしてやってよお。あたし達は無意識なんだから（小池を含んでいる）

慎之介 一緒にするなっ

ナツ あれ、違うんだ。……え、どちら様？

慎之介 えっと……

ナツ あら、そちら様も……（マキノへ）

マキノ どうも、初めまして

ナツ ん、うんっ。あたしまず着替えますっ（シー●の衣装を脱ぎ出す）

先ほどの衣装の上に着ていた様子）

店長 うん、そうしてくれ

BGM 「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」スタート

そこに、二階から踊り場にマヨが降りて来る。続けて紅、ナ●シカも。

マヨ 「この作品には「夢オチ」があります。まだ観てない友人、ご家族には、この「夢オチ」を話さないようにして下さい。紅天狗」

紅 はい、カット！ オッケーっ、冒頭にこのセリフ入れとこう

マヨ はい、先生！

紅 この前フリを、観客の心のだ真ん中にビシッと投げ込んで、グアシツと心をつかむんだ

マヨ はいっ、先生！

紅 くれぐれも暴投だけはよしてくれよ、……冒頭なだけに

紅、マヨ大爆笑（マヨ「バーベ、バーベて」と挟む）

店長 ……あの、終わりましたか？

紅 ええ、おかげさまで

店長 それは……、お疲れ様でした

紅 ありがとうございます

マヨ ありがとうございます

カント タ そいで、ちゃんと満足のいくラストは書けたのかい？

紅 ええ。よさげなシーンが書けました。それと、店長殿のお話を聞いて思い出したんです。私が昔、「夢オチの紅」と呼ばれていたことを夢オチ？

紅 はい。私、デビュー作から十本連続で、夢オチの芝居を書いたんです。演劇界で、ちよつとした評判になりました、「アイツ……、バカだ」って

店長 ああ、そうなんですか

紅 初心に返って、夢オチで書き上げてみました。「いろいろあったけど、全部チャラ」という、夢オチならではの爽快感が出せたと思います

店長 まあ、それでいいのであれば……

紅 もしお時間あったら来て下さい。明日から日曜日までやっています（と、チラシを渡す）

店長 あ、はい……（チラシを読む）劇団夢オチ、第三十二回公演……

一同 ……？

店長 あの、この劇団名ですが……

紅 何か？

店長 いや、いいです。いいならいいです。いや、書いてよかったです

紅 はい、これもひとえに皆さんのご協力あつての……

ナ●シカがその場にドサツと倒れる。照明、ピンスポで

紅 え、ちよつと師匠。師匠！（ナ●シカを抱える）

ナ●シカ （抱えられながら）……いや、何でもない。ただの栄養失調。いつものことさ

店長 さつきベーコン食つたろうが。たかろうとすんな（ピンスポの外で）

紅 （気にしない）大丈夫ですか、師匠。そんな極度の空腹を忘れるほどご協力いただいて、誠に感謝の極みです

店長 ベーコン食つたよ

ナ●シカ 紅よ……、そなたを見ていると、若い頃の自分を思い出す

紅 若い頃の？

ナ●シカ ああ、僕も好きなことを好きなだけやっては悩んでいたものだ。誰のためでもなく、自分のために。それを繰り返しているうちに年を取っていた。無論、後悔はしていないがね

紅 私も……、私も年を重ねたら、師匠のようになれるでしょうか？

ナ●シカ なるさ

紅 頑張りますっ

ナ●シカ ふっふっふ、……待っているぞ、紅。この広い大空の下で！

マヨが力強く拍手を始め、他一同をうながす。照明戻る。

他一同、お付き合いのパラパラの拍手。

ナツ （慎之介に）ねえ、「大空の下」って公園のこと？

慎之介 いいから。流しましょう

ナ●シカ ああ、それにしても、腹が減ったなあ……

店長 さつきベーコン食（遮られる）

ナ●シカ （遮って）中途半端に食べたからねえっ！（店長に逆ギレ）

店長 ……ああ？（呆れ笑）

店長 さあ。まあ、いいでしょ。考えたくない

ナツ はあ……

店長 それよりナツちゃん、電車もう動いてるよ

ナツ え、本当ですか。じゃ帰ります（帰り支度を始める）

店長 カンタ、悪いけどナツちゃん途中まで送ってって

カンタ え、俺？

店長 方向、一緒だろ？ また寝ちゃったら甲府もあるしさ

ナツ タヌキかあ

カンタ まあ、それはいいけど……（マキノを少し見る）

マキノ カンちゃん、明日さ、タメちゃんとお店来てよ。脱衣ウノやろ

カンタ お、いいね。タメちゃん、狙い撃ちね

店長 はいはい、そういう話はここでしない

カンタ・マキノ はい

カンタ はいじゃ、ナツちゃん、行ける？

ナツ はい。じゃ、みなさん。記憶ないんで反省できませんが、すいませんでした。おやすみなさい

慎之介 お疲れ様でした

店長 また明日

ナツ・カンタ、下手へ去りながら、

ナツ 脱衣ウノってなんですか？

カンタ ん、おう、アレだ。ドロフオーで四枚脱がせるのさ

ナツ うわゝ、卑猥

二人、完全に去る。

慎之介 あ、小池さん、時間

小池 あ、いけね、忘れてた

慎之介 今着替えてくるから、ちよつと待ってて。送るから（急いで二階へ上がって行く）

店長 送るって、5メートルじゃねえか

マキノ 野暮なことは言いなさんな

店長 (小池に) 今日は、なんか大変だったね。てか、休憩できてないで

しょ

小池 あ、ホントだ。でもいろいろ変で面白かったです

マキノ うん、おめーが言うな(笑)

小池 (笑) これ、また着れるかなあ……

マキノ 慎之介くんと一緒に着れば？ 同じヤツ

小池 あ、それいいですね。言ってみます

マキノ うん、それでどこ行くのか知らないけど

二階から、慎之介が急いで降りて来る。

慎之介 お待たせしましたっ。そいじゃ、ナボナ持った？

小池 はい、ありがとうございます

慎之介 それじゃ、お二人とも、また

店長 うい、明日！

マキノ 今度お客さんとして来るから

慎之介 ええ、ぜひ

慎之介、小池、下手へ去って行きながら、

小池 加藤さん、今ね、私にとって、これを着ていることはフツーなんで

すね

慎之介 ん？ ほう、ほうほう……

二人、完全に去る。

店長 あれは、うまくいったんですかね

マキノ うーん、よさげ、じゃない？

店長 よさげ、か(笑) ……さて、と。ようやく店じまいだ！ マキノさんもほちほちでしょ？

マキノ うん、そうだね……、戻らないと

店長　じゃ、明日行きますから
マキノ　うん……

店長、店内の電気をほとんど消す。
マキノ、店を出ようとするが、ゆっくり振り返り、

マキノ　タメちゃん、……お店、……やめちゃダメだよ

店長　……え？

マキノ　今日、カンちゃんに相談しようとしてたでしょ、お店のこと

店長　ああ……、ん～……

マキノ　相談というより、気持ちの整理かな

店長　……

マキノ　……あのね、私、今日、ここにこのお店が「ある」って、すごいと思っただ

店長　……そうですかね

マキノ　うん、「ある」ってそれだけですすごいと思う。今日だって、このお店がここに「ある」から、いろんな人が集まってきたんでしょ？

店長　今日はたまたまですよ。ホント、たまたま

マキノ　でも、タメちゃんが続けてなかったら、ここにこのお店はないもん。

それは、やっぱりすごいことだよ

店長　（微笑）よく、わかんないです……

マキノ　……ひとつのことを続けてると、いろいろ大変なんだろうけど、……あたしね、そんな時は、それを始めた時のことを思い出したらいと思っただ

店長　始めた、時……？

マキノ　そう。……だって、……それがあなたの人生を大きく左右した、オリジナルでしょ？

店長　……

マキノ　……じゃ、また明日ね。（帰りかけて）あ、……グチを言うなら、スナックの女にしときな（笑）

店長　（笑）……ん、間違いない

マキノ、店長に笑いかけて、下手へ去って行く。

店長、店内にひとり。

薄闇の中、座る。ひと息つく。

店長 ……ああ、……腹へった

キッチンを見る。

少し考えた後、カウンター内へ入り、グリルの前に立つ。

腰に手を当て、少し考える。

そして、静かに意を決して……

店長 ……やめて、たまつかよ

と、点火のスイッチを入れる。

“チチチチチ……”の音に、エンディング曲が重なっていく。

(終)